

令和 3 年度
三重県食品廃棄物細組成分分析調査
業務委託報告書

令和 4 年 3 月

三 重 県

目 次

1 調査の目的	1
2 調査方法	1
2.1 家庭系可燃ごみ試料の採取	1
2.2 ごみの分類	4
2.3 食品ロス発生量の推計	7
3 調査結果	8
3.1 鈴鹿市	8
3.2 津市	15
3.3 伊勢市	21
3.4 食品ロス発生状況の地域間比較	27
4 三重県内の家庭系食品ロス発生量の推計	29
5 おわりに	32
引用した文献・資料等	34
参考資料	36

資料編

現場写真

地域別データ一覧

1 調査の目的

三重県は令和3年3月に策定した「三重県循環型社会形成推進計画（令和3年度～7年度）」¹において、家庭系食品ロス発生量を現状（令和3年度）から令和7年度までに10%削減することを目標に定め、市町と連携し、食品ロスの発生抑制の取組みを進めることとしています。本調査は、こうした取組みをより効果的に進められるよう、県内における家庭系食品ロスの排出実態や課題等を把握することを目的として実施しました。

2 調査方法

本調査は、環境省環境再生・資源循環局が取りまとめた「家庭系食品ロスの発生状況の把握のためのごみ袋開袋調査手順書（令和元年5月版）」²（以下、環境省食品ロス調査手順書と略）に基づき、以下の手順により実施しました。

2.1 家庭系可燃ごみ試料の採取

（1）調査対象地域および調査日

本調査では、三重県北勢地域から鈴鹿市、中勢地域から津市、南勢・東紀州地域から伊勢市を調査対象として選定しました。さらに、各市において、地域環境の異なる3つの地域、すなわち、「既存市街地にある住宅街（以下、住宅地域（旧来）と略）」、「郊外にある新興住宅街（以下、住宅地域（郊外）と略）」、「農村・漁村地域（以下、農村地域と略）」からそれぞれ1地区を選定し、地区ごとにごみ試料を採取しました。調査対象とした地区および調査日は表1に示すとおりです。

表1. 調査対象地域および調査日

調査対象市町	調査対象地域		調査日
	地域環境	対象地区	
鈴鹿市	住宅地域（旧来）	稲生中瀬古地区	令和4年1月18日（火）
	住宅地域（郊外）	東旭が丘地区	
	農村地域	下箕田地区	
津市	住宅地域（旧来）	一身田中野地区	令和4年1月14日（金）
	住宅地域（郊外）	緑の街地区	
	農村地域	大里山室地区	
伊勢市	住宅地域（旧来）	一之木地区	令和4年1月17日（月）
	住宅地域（郊外）	柏団地地区	
	農村地域	西豊浜小川地区	

(2) 家庭系可燃ごみ試料の採取方法および採取量

各市の調査対象地区のごみ集積所において、家庭から排出された直後のごみ袋を試料として採取し、ごみ袋が破れないよう平ボディトラックに積み込み、表2に示すごみ分類作業の実施場所に搬入しました。搬入後は直ちにごみの重量を測定しました(写真1)。三重県が実施した令和元年度の調査³⁾によれば、家庭系可燃ごみ中の食品廃棄物の割合は約30%であったことから、各分析場所では50kg以上の食品廃棄物の収集を目標に、概ね150kg以上の可燃ごみを採取することとしました。

表2. ごみの分類作業実施場所

調査対象市町	実施場所
鈴鹿市	鈴鹿市不燃物リサイクルセンター (鈴鹿市国分町1700)
津市	津市西部クリーンセンター (津市片田田中町1304)
伊勢市	明和町清掃センター (伊勢市環境生活部ごみ減量課) (伊勢市西豊浜町654)



①ごみ集積所における試料の採取



②ごみ試料の積み込み（平ボディトラック使用）



③分類作業場所へのごみ試料の搬入



④ごみ試料の重量測定



⑤ごみ分類作業実施場所



⑥収集したごみ試料

写真1 家庭系可燃ごみ試料の収集・搬入・重量計測の様子（鈴鹿市の事例）

2.2 ごみの分類

本調査では、家庭系可燃ごみを表3に示す19項目に分類しました。分類作業は以下の手順により実施しました。

表3. 家庭系可燃ごみの分類項目（19項目）

分 類 項 目		分類番号		
食品廃棄物以外		1		
食品廃棄物	調理くず	2		
	食 品 ロ ス	食べ残し	3	
		直接廃棄 (手付かず100%残存)	消費期限・期限内	4
			消費期限・期限切れ	5
			賞味期限・期限内	6
			賞味期限・期限切れ	7
			表示なし	8
		直接廃棄 (手付かず50%以上残存)	消費期限・期限内	9
			消費期限・期限切れ	10
			賞味期限・期限内	11
			賞味期限・期限切れ	12
			表示なし	13
		直接廃棄 (手付かず50%未満残存)	消費期限・期限内	14
			消費期限・期限切れ	15
			賞味期限・期限内	16
			賞味期限・期限切れ	17
	表示なし	18		
	その他	19		

【分類作業1】

現場に搬入された家庭系可燃ごみ試料を、まず食品廃棄物と食品廃棄物以外に分類しました（写真2）。



写真2. 家庭系可燃ごみの分類作業の様子（食品廃棄物とそれ以外のごみの分類）

【分類作業 2】

上記で分類した食品廃棄物について、調理時に廃棄される「調理くず（不可食部）」、賞味期限切れ等により料理の食材として使用、又はそのまま食べられる食品として使用・提供されずに捨てられた「直接廃棄（手付かず食品）」、食卓にのぼったものの食べられずに捨てられた「食べ残し」、生ごみとともに排出されやすく、上記に分類されない「その他（ペットフード、生け花等）」の4つに分類し（表3、4、写真3）、個別に重量測定を行いました。

本調査では、食品廃棄物のうち、本来食べられるにもかかわらず捨てられる「食べ残し」と「直接廃棄」を食品ロスとして取り扱いました（表3、4）。

表4. 家庭から排出される食品廃棄物（生ごみ）の分類項目

（当該分類基準は、環境省食品ロス調査手順書²⁾に基づく）

分類		概要	具体例	
調理くず		調理過程から排出された不可食部。ごみ袋の開袋調査においては「過剰除去 ^{*1} 」もこれに含む。	野菜・果物の皮、くず、芯、魚の骨・内臓、エビの殻、貝の殻、鳥獣の骨、卵の殻、出汁用の昆布等	
食品ロス	食べ残し	調理され又は生のまま食卓にのぼったものの、食べられずに捨てられたもの。	野菜、果物、卵、魚介類、肉類、パン類、菓子類、麺類等	
	直接廃棄 （手付かず食品）	100%残存	購入後、まったく手が付けられずに捨てられたもの。	野菜、果物、卵、魚介類、肉類、パン類、菓子類、麺類、缶詰・びん詰め、大豆製品（納豆、豆腐）、乳製品（ヨーグルト）、調味料（マヨネーズ、ソース等）
		50%以上残存	購入後、ほとんど手を付けられずに捨てられたもの。概ね、50%以上の原形を残すもの。 ^{*2}	上記と同様の品目で、概ね50%以上の原形を残すもの。 （例）袋に半分残ったもやし、半分の林檎、容器に半分残ったドレッシング等
		50%未満残存	購入後、一定程度手が付けられて捨てられたもの。概ね50%未満の原形を残すもの。 ^{*2}	上記と同様の品目で、概ね50%未満の原形を残すもの。 （例）袋に1/4だけ残ったもやし、1/4の林檎、容器に1/4だけ残ったドレッシング等
その他		生ごみとともに排出されやすく、上記に分類されないもの。	ペットフード、生け花等	

*1：環境省食品ロス調査手順書²⁾で区分する「過剰除去」については、ごみ袋の開袋調査では把握が困難であり、本調査では調理くずの中を含めた。

*2：50%以上残存と50%未満残存の区分は判断が難しい場合が多く、現場での判断に基づく。



①食品廃棄物の仕分け作業



②調理くず



③直接廃棄（100%残存）



④直接廃棄（50%以上残存）



⑤直接廃棄（50%未満残存）



⑥食べ残し

写真3. 食品廃棄物の分類作業の様子（①）および発生要因別分類項目（②～⑥）

【分類作業 3】

食品ロスに分類される直接廃棄については、さらにその残存状況から、「100%残存（全く手が付けられずに捨てられたもの）」、「50%以上残存」、「50%未満残存」に分類し（表 4、写真 3）、個別に重量測定を行いました。

【分類作業 4】

食品ロスの実態をより詳細に分析するために、直接廃棄については、消費期限、賞味期限が記載されているかどうか、記載されている場合はその期限が切れているか否かを調べて分類し（表 3）、それぞれについて重量測定を行いました。

なお、消費・賞味期限については、消費者庁食品表示課⁴⁾により以下のとおり説明されています。

「消費期限」

消費期限とは、定められた方法により保存した場合において、腐敗、変敗その他の品質（状態）の劣化に伴い安全性を欠くこととなる恐れがないと認められる期限を示す年月日のことで、開封前の状態で定められた方法により保存すれば食品衛生上の問題が生じないと認められるもの。このため、「消費期限」を過ぎた食品は食べないようにする。

「賞味期限」

賞味期限とは、定められた方法により保存した場合において、期待されるすべての品質の保持が十分に可能であると認められる期限を示す年月日のこと。ただし、当該期限を超えた場合であっても、これらの品質が保持されていることがある。このため、賞味期限を過ぎた食品であっても、必ずしもすぐに食べられなくなるわけではないので、それぞれの食品が食べられるかどうかについては、消費者が個別に判断する必要がある。

2.3 食品ロス発生量の推計

調査対象とした3市（鈴鹿市・津市・伊勢市）における食品ロス発生量を、環境省による食品ロス発生量の全国推計方法⁵⁾に基づき次式により推計しました。

$$\boxed{\text{食品廃棄物発生量}} = \boxed{\text{家庭系可燃ごみ収集量}} \times \boxed{\text{家庭系可燃ごみ中の食品廃棄物の割合}} \cdots (1)$$

$$\boxed{\text{食品ロス発生量}} = \boxed{\text{食品廃棄物発生量}} \times \boxed{\text{食品廃棄物発生量中の食品ロスの割合}} \cdots (2)$$

ここで、（1）式の「家庭系可燃ごみ中の食品廃棄物の割合」および（2）式の「食品廃棄物発生量中の食品ロスの割合」として、本調査で求めた各市の「家庭系可燃ごみ試料中の食品廃棄物の割合」および「食品廃棄物中の食品ロスの割合」を当てはめました。

また、本調査で求めた鈴鹿市、津市、伊勢市の「家庭系可燃ごみ中の食品廃棄物の割合」

および「食品廃棄物中の食品ロスの割合」を、北勢、中勢、南勢・東紀州地域のそれぞれの割合と仮定し、各地域の家庭系可燃ごみ収集量（本調査では令和2年度の実測値（三重県環境生活部廃棄物対策局資料）⁶⁾を使用）をもとに、上式から地域別の食品ロス発生量を推計しました。さらに、それらを総計し、三重県全体の食品ロス発生量を求めました。なお、北勢、中勢、南勢・東紀州地域の地域区分については、三重県ホームページ⁷⁾を参考に表5のとおりとしました。

表5. 三重県の地域区分

地域	対象市町
北勢地域	桑名市・四日市市・いなべ市・鈴鹿市・亀山市・木曾岬町・東員町・菰野町・朝日町・川越町
中勢地域	津市・松阪市・名張市・伊賀市・多気町・明和町・大台町
南勢・東紀州地域	伊勢市・鳥羽市・志摩市・尾鷲市・熊野市・玉城町・度会町・大紀町・南伊勢町・紀北町・御浜町・紀宝町

※下線の市は本調査における各地域の代表市町（調査対象市町）として選定

3 調査結果

3.1 鈴鹿市

(1) 鈴鹿市のごみ処理計画および削減目標

「鈴鹿市一般廃棄物処理基本計画（計画期間：令和元年度～令和13年度）」⁸⁾において、「ごみの減量と資源化の推進」、「環境保全のためのごみの適正処理」、「地域と行政との協働体制の確立」の3つを基本方針に掲げ、自然と共生する快適な生活環境づくりを進めるために、各施策に取り組んでいます。とりわけ「ごみの減量の推進」については、家庭系ごみの減量化に向け、食品ロスの削減や生ごみ処理機購入助成の導入・促進に注力することとしています。これらの取組みを通じ、1人1日当たりのごみ排出量を、現状（平成29年度）の939gから令和13年度までに912gに削減することを目標としています。

(2) 試料中の食品廃棄物の割合

調査対象地区における家庭系可燃ごみ試料の採取量を表 6 に示しました。農村地域（下箕田地区）においては、調査当日のごみ排出量が少なかったため、ごみ袋全数を集荷し、それらすべてを試料に用いました。他の地区では概ね目標量（各地区 150kg 以上）を確保できました。

表 6. 家庭系可燃ごみ試料の採取量（鈴鹿市）

調査対象地域	地域環境	採取した試料	
		袋数	重量 (kg)
稻生中瀬古地区	住宅地域（旧来）	37	179.0
東旭が丘地区	住宅地域（郊外）	43	165.1
下箕田地区	農村地域	28	78.0
合 計		108	422.2

※小数点以下は端数処理により合計値が一致しない場合がある。

試料中の食品廃棄物の重量割合を表 7 および図 1 に示しました。市内 3 地域合計の食品廃棄物の割合は 38.5%でした。地域別にみると、住宅地域（旧来）で 44.5%、住宅地域（郊外）で 35.5%、農村地域では 31.2%と、住宅地域（旧来）で高くなりました。

表 7. サンプル試料中の食品廃棄物の重量割合（鈴鹿市）

地 域	サンプリング試料重量 (kg) (A)	うち食品廃棄物重量 (kg) (B)	食品廃棄物の割合 (%) (C = B/A × 100)	食品廃棄物以外の割合 (%) (D = 100 - C)
合 計	422.2	162.6	38.5	61.5
住宅地域（旧来）	179.0	79.6	44.5	55.5
住宅地域（郊外）	165.1	58.6	35.5	64.5
農村地域	78.0	24.4	31.2	68.8

※小数点以下は端数処理により合計値が一致しない場合がある。

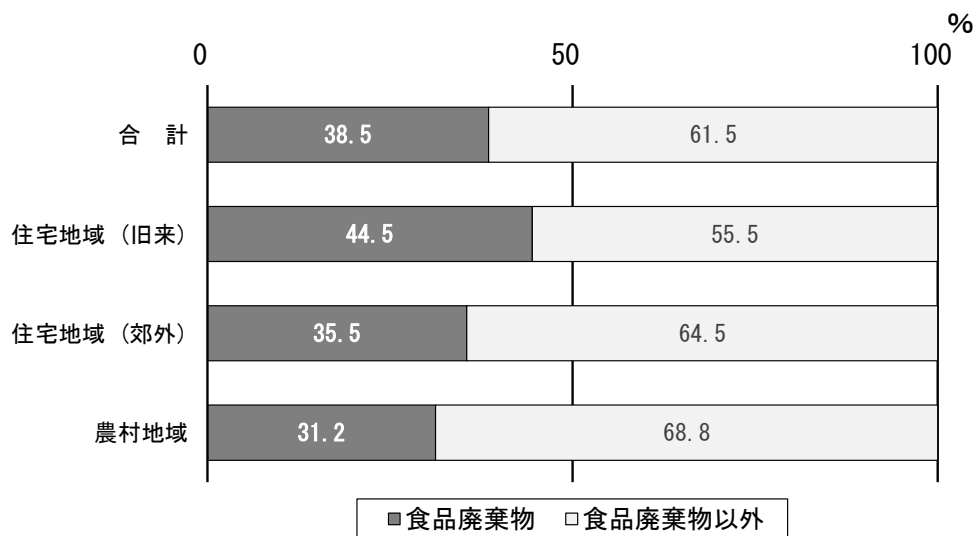


図 1. サンプル試料中の食品廃棄物の重量割合（鈴鹿市）

（3）食品廃棄物中の食品ロスの割合

食品廃棄物中の食品ロスの重量割合を表 8 および図 2 に示しました。市内 3 地域合計の食品ロスの割合は 35.7%でした。地域別にみると、住宅地域（旧来）で 30.4%、住宅地域（郊外）で 45.7%、農村地域では 28.8%と、住宅地域（郊外）で高くなりました。

表 8. 食品廃棄物中の食品ロスの重量割合（鈴鹿市）

単位：%

地 域	食品ロス の割合	食品ロスの発生要因別内訳			
		直接廃棄			食べ残し
		100% 残存	50% 以上残存	50% 未満残存	
合 計	35.7	12.1	4.1	1.6	17.8
住宅地域 (旧来)	30.4	13.7	4.4	0.4	11.9
住宅地域 (郊外)	45.7	9.6	5.0	3.0	28.0
農村地域	28.8	13.2	1.4	2.1	12.1

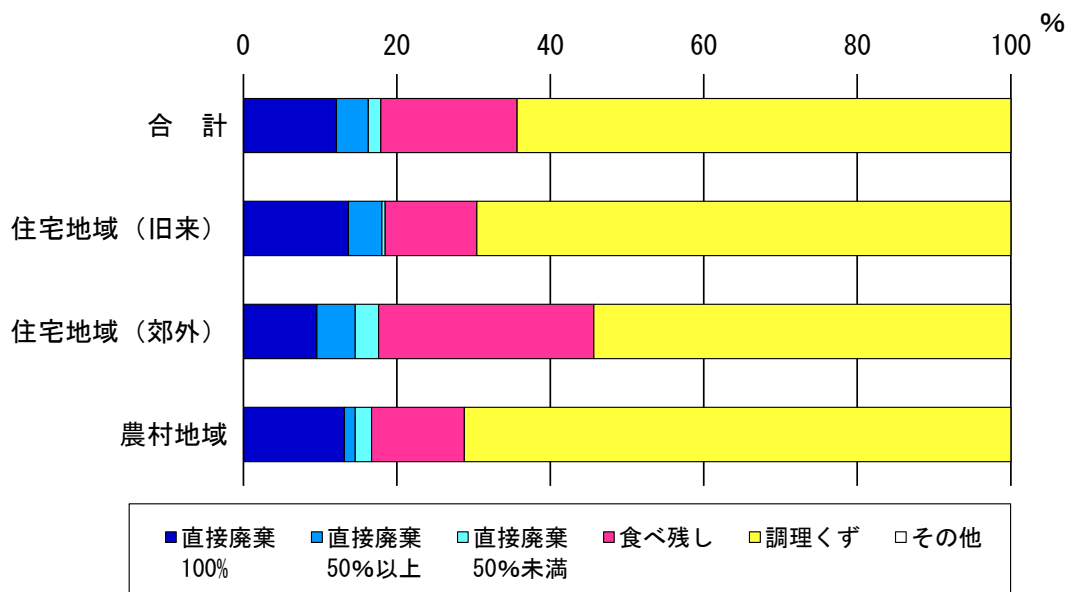


図2. 食品廃棄物中の食品ロス（直接廃棄+食べ残し）の重量割合（鈴鹿市）

（4）食品ロスの発生要因別内訳

市内3地域のいずれにおいても、食べ残しと直接廃棄（100%残存）が食品ロスの大半（食品ロスの82~88%）を占めました（表8、図2）。食べ残しについては、ご飯や鍋の具材等（写真4）の廃棄が目立ちました。一方、直接廃棄（100%残存）では、ハム、のり、イカ総菜の正月用食材やレトルト食品、お菓子等が廃棄されていました（写真5）。



写真4. 「食べ残し」の試料（ご飯、鍋具材等が目立つ。鈴鹿市 住宅地域（郊外）の事例）



写真5. 「直接廃棄（100%残存）」の試料（ハム、のり、イカ総菜等の正月用食材、レトルト食品、お菓子等。鈴鹿市 住宅地域（郊外）の事例）

地域別にみると、住宅地域（郊外）における食べ残しの割合が他地域より高い値を示しました（表 8、図 2）。住宅地域（郊外）で食品ロスの割合が高くなったのはこのことに起因しています。なお、直接廃棄（100%残存）の割合は、3 地域で類似していました。

（5）直接廃棄された食品の消費・賞味期限の記載状況

直接廃棄（100%残存）における消費・賞味期限の記載状況（直接廃棄 100%残存に占める重量割合）を表 9 および図 3 に整理しました。市内 3 地域において、消費・賞味期限内の割合はほぼゼロでした。一方、消費・賞味期限切れの割合は 3 地域合計で 28.7% であり、住宅地域（郊外）で 40.3% と高くなりました。また、表示なしの割合については、農村地域で 96.1% と顕著に高い値を示し、とりわけ生鮮野菜や果物の廃棄が目立ちました（写真 6）。

表 9. 直接廃棄された食品（100%残存）の消費・賞味期限の記載状況（鈴鹿市）

単位：%

地 域	期限内		期限切れ		表示なし
	消費期限	賞味期限	消費期限	賞味期限	
合 計	0.0	0.0	8.0	20.7	71.3
住宅地域（旧来）	0.0	0.0	9.5	20.5	70.0
住宅地域（郊外）	0.0	0.1	9.6	30.7	59.6
農村地域	0.0	0.0	0.0	3.9	96.1

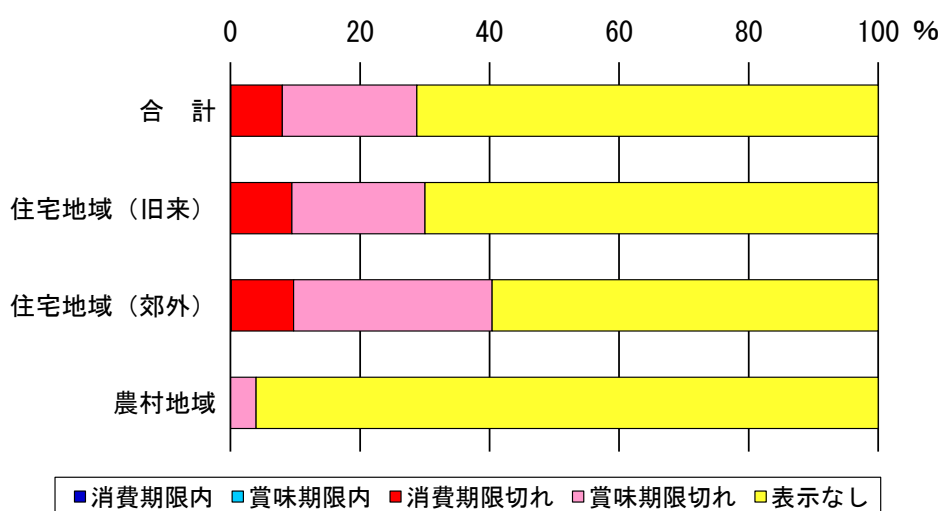


図 3. 直接廃棄された食品（100%残存）の消費・賞味期限の記載状況（鈴鹿市）



写真 6. 「直接廃棄（100%残存）消費・賞味期限表示なし」の試料（生鮮野菜・果物が目立つ。鈴鹿市 農村地域の事例）

直接廃棄（100%残存）に加え、直接廃棄全体（100%残存、50%以上残存、50%未満残存）についても、消費・賞味期限記載状況（直接廃棄全体に占める重量割合）を整理しました。その結果は表 10 および図 4 に示すとおりです。市内 3 地域合計の消費・賞味期限内の割合は 4.7%、消費・賞味期限切れは 30.3%であり、直接廃棄（100%残存、表 9 および図 3）と概ね類似した値を示しました。

表 10. 直接廃棄された食品（全体）の消費・賞味期限の記載状況（鈴鹿市）

単位：%

地 域	期限内		期限切れ		表示なし
	消費期限	賞味期限	消費期限	賞味期限	
合 計	0.0	4.7	6.8	23.5	65.0
住宅地域（旧来）	0.0	7.5	8.1	19.9	64.6
住宅地域（郊外）	0.0	2.7	6.3	34.9	56.1
農村地域	0.0	0.0	3.4	7.3	89.3

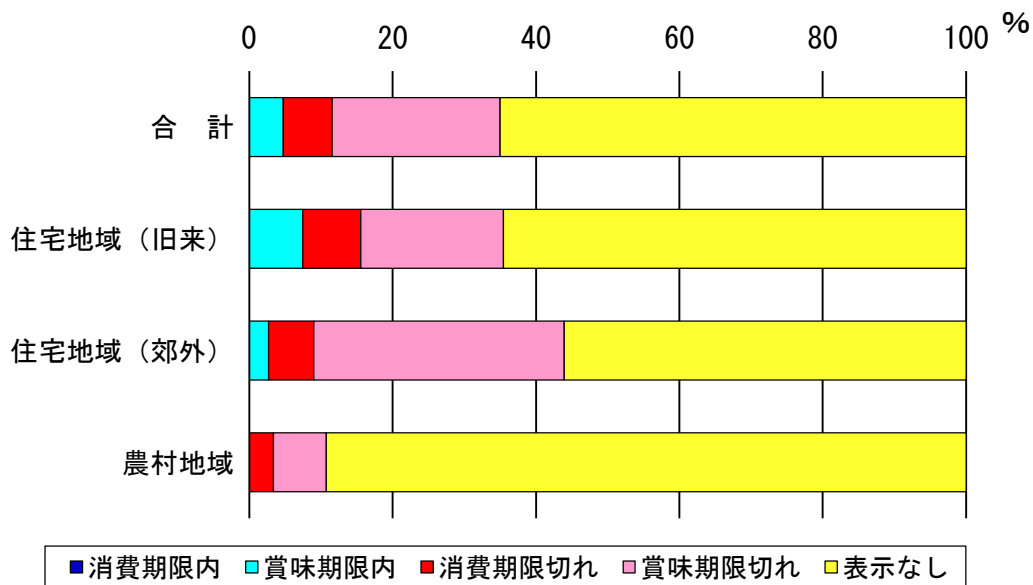


図4. 直接廃棄された食品（全体）の消費・賞味期限の記載状況（鈴鹿市）

(6) 食品ロス発生量

本調査によって推計した鈴鹿市全体の食品ロス発生量を表11および図5に、鈴鹿市1人1日当たりの食品ロス発生量を図6に示しました。市内全体の年間の食品ロス発生量は4,947t、このうち、直接廃棄（100%残存）は1,683t、直接廃棄（50%以上残存）は575t、直接廃棄（50%未満残存）は226t、食べ残しは2,462tと推計されました。さらに鈴鹿市の人口（199,249人）⁶⁾から1人1日当たりの食品ロス発生量を見積もると68.0gとなりました。

表11. 鈴鹿市における食品ロス発生量の推計（年間ベース）

家庭系可燃ごみ収集量 (t) *1	家庭系可燃ごみに占める食品廃棄物の割合 (%) *2	食品廃棄物発生量 (t)	食品廃棄物に占める食品ロスの割合 (%) *2					食品ロス発生量 (t)				
			発生要因全体	直接廃棄			食べ残し	発生要因全体	直接廃棄			食べ残し
				100%残存	50%以上残存	50%未満残存			100%残存	50%以上残存	50%未満残存	
(a)	(b)	(A=a×b/100)	(c _t)	(c ₁)	(c ₂)	(c ₃)	(c ₄)	(B _t =A×c _t /100)	(B ₁ =A×c ₁ /100)	(B ₂ =A×c ₂ /100)	(B ₃ =A×c ₃ /100)	(B ₄ =A×c ₄ /100)
35,988	38.5	13,862	35.7	12.1	4.1	1.6	17.8	4,947	1,683	575	226	2,462

*1 三重県環境生活部廃棄物対策局 廃棄物・リサイクル課資料（令和2年度実測値）⁶⁾

*2 当該調査結果に基づく

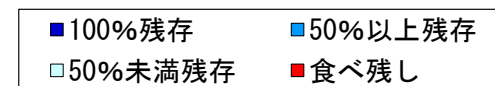
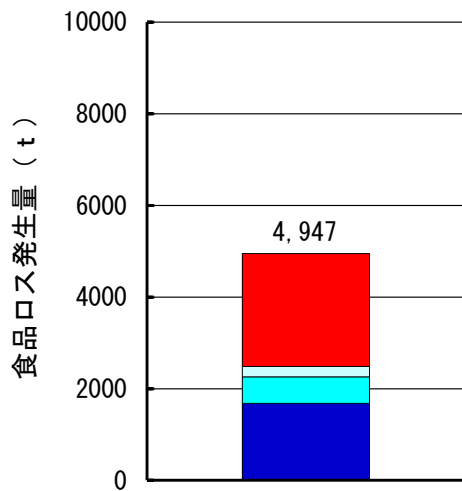


図 5. 年間の食品ロス発生量 (鈴鹿市)
 (三重県環境生活部廃棄物対策局 廃棄物・リサイクル課資料 (令和 2 年度実測値) に基づく)

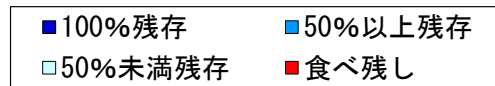
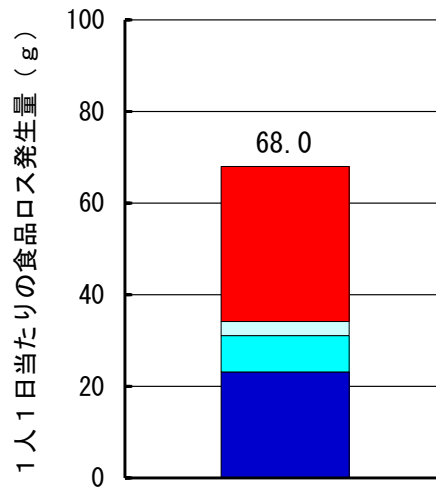


図 6. 1 人 1 日当たり食品ロス発生量 (鈴鹿市)
 (三重県環境生活部廃棄物対策局 廃棄物・リサイクル課資料 (令和 2 年度実測値) に基づく)

3. 2 津市

(1) 津市のごみ処理計画および削減目標

「津市一般廃棄物処理基本計画 (計画期間:平成 30 年度～令和 9 年度)」⁹⁾において、「市民・事業者・市の協働による循環型社会づくりの推進」、「廃棄物の適正処理の推進」、「安全・安心な廃棄物処理システムの継続」の 3 つを基本方針に掲げ、市が目指す環境像 (豊かな自然とともに歩み、より暮らしやすい環境を創造するまち津) の実現に向け、各施策に取り組んでいます。重点施策の一つである「生ごみの減量化」については、家庭用生ごみ処理機の購入助成による生ごみのコンポスト化推進や、食品ロス削減の取り組みの周知等を進めています。ごみの減量化、資源化に関する施策を通じ、1 人 1 日当たりのごみ排出量を、現状 (平成 28 年度) の 1,003g から令和 9 年度までに 950g に削減することを目標としています。

(2) 試料中の食品廃棄物の割合

調査対象地区において採取した家庭系可燃ごみ試料は、表 12 のとおり目標量 (各地区 150kg 以上) を確保できました。

表 12. 家庭系可燃ごみ試料の採取量（津市）

調査対象地区	地域環境	採取した試料	
		袋数	重量 (kg)
一身田中野地区	住宅地域（旧来）	61	193.9
緑の街地区	住宅地域（郊外）	53	185.2
大里山室地区	農村地域	48	170.0
合 計		162	549.1

※小数点以下は端数処理により合計値が一致しない場合がある。

試料中の食品廃棄物の重量割合を表 13 および図 7 に示しました。市内 3 地域合計の食品廃棄物の割合は 44.1% でした。地域別にみると、住宅地域（旧来）で 37.8%、住宅地域（郊外）で 42.0%、農村地域で 53.4% と、農村地域で高くなりました。

表 13. サンプル試料中の食品廃棄物の重量割合（津市）

地 域	サンプリング試料重量 (kg) (A)	うち食品廃棄物重量 (kg) (B)	食品廃棄物の割合 (%) (C = B/A × 100)	食品廃棄物以外の割合 (%) (D = 100 - C)
合 計	549.1	241.9	44.1	55.9
住宅地域（旧来）	193.9	73.4	37.8	62.2
住宅地域（郊外）	185.2	77.7	42.0	58.0
農村地域	170.0	90.8	53.4	46.6

※小数点以下は端数処理により合計値が一致しない場合がある。

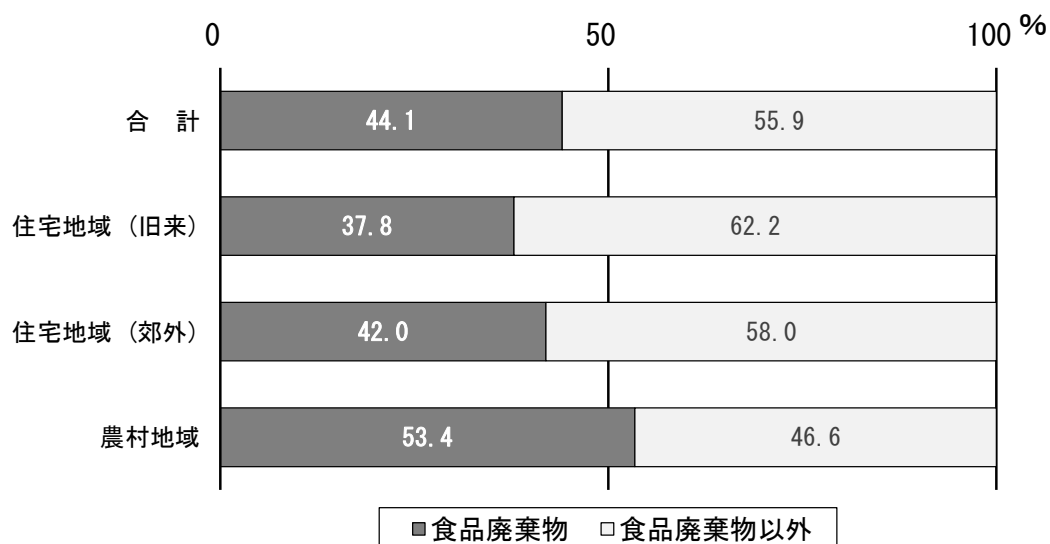


図 7. サンプル試料中の食品廃棄物の重量割合（津市）

(3) 食品廃棄物中の食品ロスの割合

食品廃棄物中の食品ロスの重量割合を表 14 および図 8 に示しました。市内 3 地域合計の食品ロスの割合は 33.5%でした。地域別にみると、住宅地域（旧来）で 38.1%、住宅地域（郊外）で 31.7%、農村地域では 31.4%と、住宅地域（旧来）でやや高くなりました。

表 14. 食品廃棄物中の食品ロスの重量割合（津市）

単位：%

地 域	食品ロス の割合	食品ロスの発生要因別内訳			
		直接廃棄			食べ残し
		100% 残存	50% 以上残存	50% 未満残存	
合 計	33.5	14.6	4.3	2.6	11.9
住宅地域（旧来）	38.1	20.5	3.5	2.3	11.8
住宅地域（郊外）	31.7	11.0	5.7	4.2	10.9
農村地域	31.4	13.0	3.8	1.6	13.0

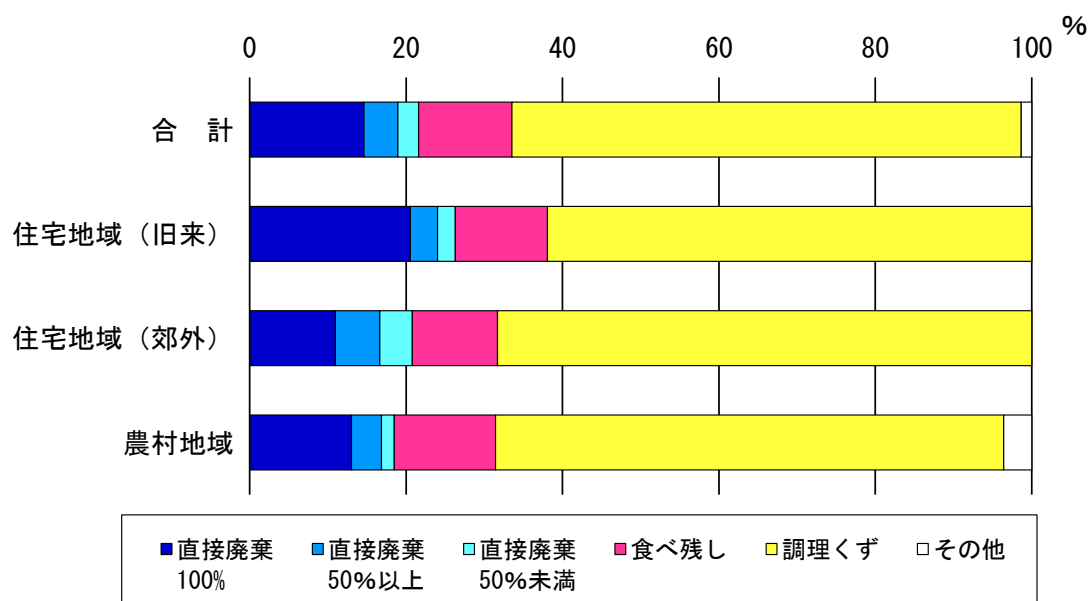


図 8. 食品廃棄物中の食品ロス（直接廃棄+食べ残し）の重量割合（津市）

(4) 食品ロスの発生要因別内訳

市内 3 地域のいずれにおいても、食べ残しと直接廃棄（100%残存）が食品ロスの大半（食品ロスの 69~85%）を占めました。食べ残しでは、ご飯やトマト等の野菜類、みかんやリンゴ等（写真 7）、直接廃棄（100%）では餅やレトルト食品、菓子類等（写真 8）が廃棄されていました。



写真7. 「食べ残し」の試料（ご飯、トマト等の野菜類、みかん、リンゴ等が廃棄。津市 住宅地域（郊外）の事例）



写真8. 「直接廃棄（100%残存）」の試料（餅、レトルト食品、菓子類、野菜等が廃棄。津市 住宅地域（旧来）の事例）

地域別にみると、食べ残しの割合は3地域で類似（10.9～13.0%）、一方で、直接廃棄（100%残存）は住宅地域（旧来）で他地域より高い値を示しました（表 14、図 18）。

（5）直接廃棄された食品の消費・賞味期限の記載状況

直接廃棄（100%残存）における消費・賞味期限の記載状況（直接廃棄 100%残存に占める重量割合）を表 15 および図 9 に整理しました。市内3地域において、消費・賞味期限内の食品の割合は1.3～2.9%と低い値を示しました。一方、消費・賞味期限切れの割合は3地域合計で21.5%であり、住宅地域（郊外）で50.2%と高くなりました。また、農村地域では表示なしの割合が89.5%と高く、生鮮野菜や果物の廃棄が目立ちました（写真9）。こうした地域特性は、鈴鹿市と類似していました。

表 15. 直接廃棄された食品（100%残存）の消費・賞味期限の記載状況（津市）

単位：%

地 域	期限内		期限切れ		表示なし
	消費期限	賞味期限	消費期限	賞味期限	
合 計	0.0	1.3	7.5	14.0	77.2
住宅地域（旧来）	0.0	1.4	5.0	8.8	84.8
住宅地域（郊外）	0.0	2.9	11.1	39.1	46.9
農村地域	0.0	0.0	8.1	2.5	89.5

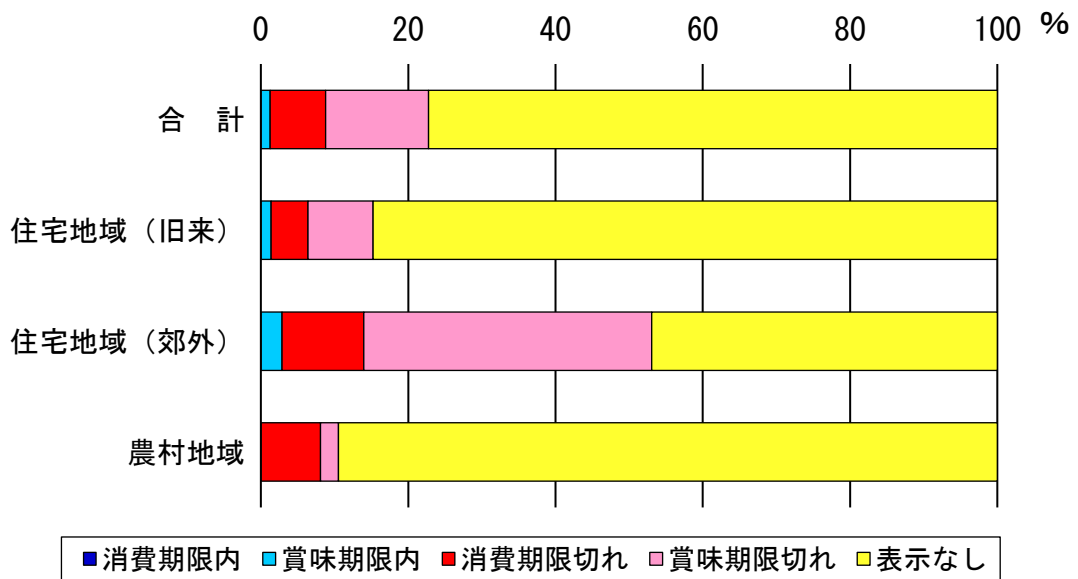


図 9. 直接廃棄された食品（100%残存）の消費・賞味期限の記載状況（津市）



写真 9. 「直接廃棄（100%残存）消費・賞味期限表示なし」の試料（生鮮野菜・果物が目立つ。津市 農村地域の事例）

直接廃棄全体（100%残存、50%以上残存、50%未満残存）の消費・賞味期限の記載状況（直接廃棄全体に占める重量割合）を表 16 および図 10 に示しました。市内 3 地域合計の消費・賞味期限内の割合は 3.1%、消費・賞味期限切れは 22.5%であり、直接廃棄（100%残存、表 15 および図 9）と概ね類似した値を示しました。

表 16. 直接廃棄された食品（全体）の消費・賞味期限の記載状況（津市）

単位：％

地 域	期限内		期限切れ		表示なし
	消費期限	賞味期限	消費期限	賞味期限	
合 計	0.0	3.1	9.1	13.4	74.4
住宅地域（旧来）	0.0	3.6	6.1	8.2	82.2
住宅地域（郊外）	0.0	5.9	11.9	30.8	51.4
農村地域	0.0	0.0	9.9	2.7	87.5

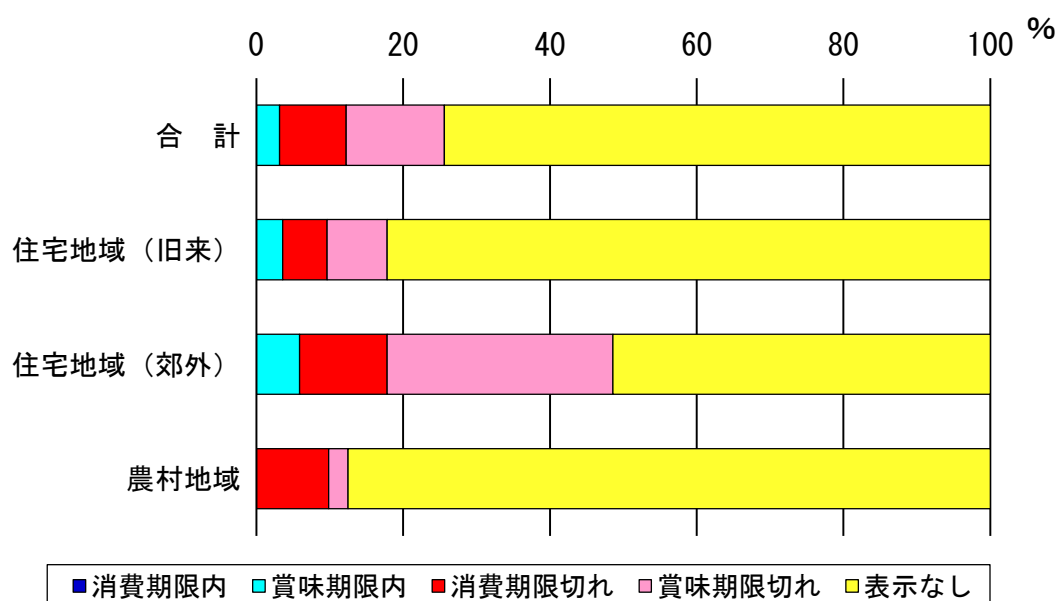


図 10. 直接廃棄された食品（全体）の消費・賞味期限の記載状況（津市）

（6）食品ロス発生量

本調査によって推計した津市全体の食品ロス発生量を表 17 および図 11 に、津市 1 人 1 日当たりの食品ロス発生量を図 12 に示しました。市内全体の年間の食品ロス発生量は 7,997t、このうち、直接廃棄（100%残存）は 3,490t、直接廃棄（50%以上残存）は 1,032t、直接廃棄（50%未満残存）は 628t、食べ残しは 2,847t と推計されました。さらに津市の人口（276,323 人）⁶⁾から 1 人 1 日当たりの食品ロス発生量を見積もると 79.3 g となりました（図 12）。

表 17. 津市における食品ロス発生量の推計（年間ベース）

家庭系可燃ごみ収集量 (t) *1	家庭系可燃ごみに占める食品廃棄物の割合 (%) *2	食品廃棄物発生量 (t)	食品廃棄物に占める食品ロスの割合 (%) *2					食品ロス発生量 (t)				
			発生要因全体	直接廃棄			食べ残し	発生要因全体	直接廃棄			食べ残し
				100%残存	50%以上残存	50%未満残存			100%残存	50%以上残存	50%未満残存	
(a)	(b)	(A=a×b/100)	(c)	(c ₁)	(c ₂)	(c ₃)	(c ₄)	(B ₁ =A×c ₁ /100)	(B ₂ =A×c ₂ /100)	(B ₃ =A×c ₃ /100)	(B ₄ =A×c ₄ /100)	
54,125	44.1	23,847	33.5	14.6	4.3	2.6	11.9	7,997	3,490	1,032	628	2,847

*1 三重県環境生活部廃棄物対策局 廃棄物・リサイクル課資料（令和2年度実測値）⁹⁾

*2 当該調査結果に基づく

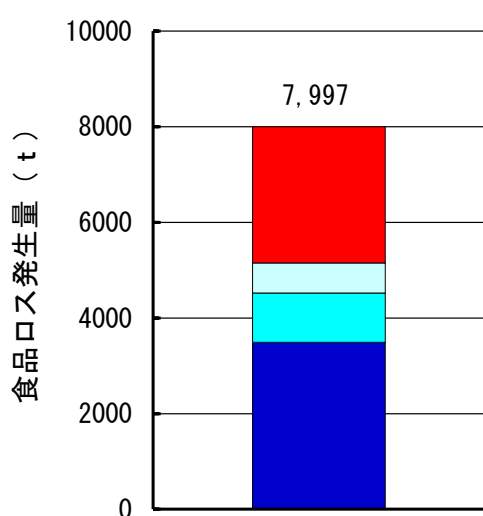


図 11. 年間の食品ロス発生量 (津市)
 (三重県環境生活部廃棄物対策局 廃棄物・リサイクル課資料 (令和2年度実測値) に基づく)

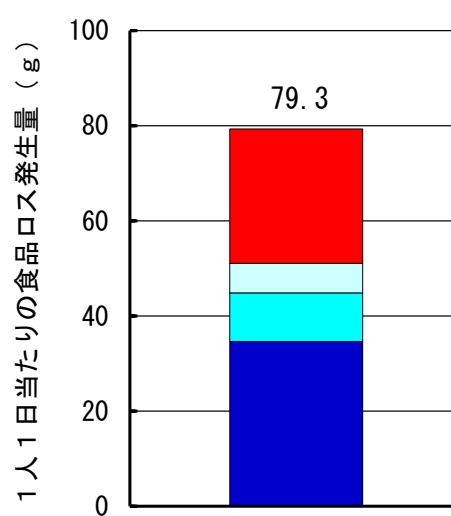


図 12. 1人1日当たり食品ロス発生量 (津市)
 (三重県環境生活部廃棄物対策局 廃棄物・リサイクル課資料 (令和2年度実測値) に基づく)

3.3 伊勢市

(1) 伊勢市のごみ処理計画および削減目標

「伊勢市ごみ処理基本計画（計画期間：平成30年度～令和9年度）」¹⁰⁾において、「3R（ごみの減量と資源化）の推進」、「安全・安心を目指した適正かつ効率的なごみ処理の推進」、「市民・地域組織・事業者、行政による協働の推進」の3つを基本方針に掲げ、基本理念にある「私たちからはじめよう！ごみをゴミにしないまち・伊勢」の実現に向け、各施策に取り組んでいます。「3R（ごみの減量と資源化）の推進」においては、「食品ロス削減」を重点施策の一つに位置づけ、量り売り（適量購入）の利用・展開促進、30・10運動（飲食時・会食時の開始30分、終了10分前に自席について食事に専念

し、食べ残しを減らす運動)の推進、メディアを使った食品ロス削減取組みの広報、福祉・農林・消費者団体等と連携した食品廃棄物ループの構築などに取組んでいます。ごみの減量化・資源化の推進を通じ、可燃ごみ量を、現状(平成28年)の42,948tから令和9年度までに38,438tに削減(現状から約10%削減)することを目標としています。

(2) 試料中の食品廃棄物の割合

調査対象地区において採取した家庭系可燃ごみ試料は、表18のとおり目標量(各地区150kg以上)を確保できました。

表18. 家庭系可燃ごみ試料の採取量(伊勢市)

調査対象地区	地域環境	採取した試料	
		袋数	重量(kg)
一之木地区	住宅地域(旧来)	52	165.6
柏団地地区	住宅地域(郊外)	49	165.5
西豊浜小川地区	農村地域	55	201.1
合 計		156	532.2

※小数点以下は端数処理により合計値が一致しない場合がある。

試料中の食品廃棄物の重量割合を表19および図13に示しました。市内3地域合計の食品廃棄物の割合は32.9%でした。地域別にみると、住宅地域(旧来)で29.6%、住宅地域(郊外)で36.5%、農村地域で32.7%と比較的類似した値となり、鈴鹿市や津市のような顕著な地域差はみられませんでした。

表19. サンプルング試料中の食品廃棄物の重量割合(伊勢市)

地 域	サンプルング試料重量(kg) (A)	うち食品廃棄物重量(kg) (B)	食品廃棄物の割合(%) (C = B/A × 100)	食品廃棄物以外の割合(%) (D = 100 - C)
合 計	532.2	175.2	32.9	67.1
住宅地域(旧来)	165.6	49.0	29.6	70.4
住宅地域(郊外)	165.5	60.4	36.5	63.5
農村地域	201.1	65.8	32.7	67.3

※小数点以下は端数処理により合計値が一致しない場合がある。

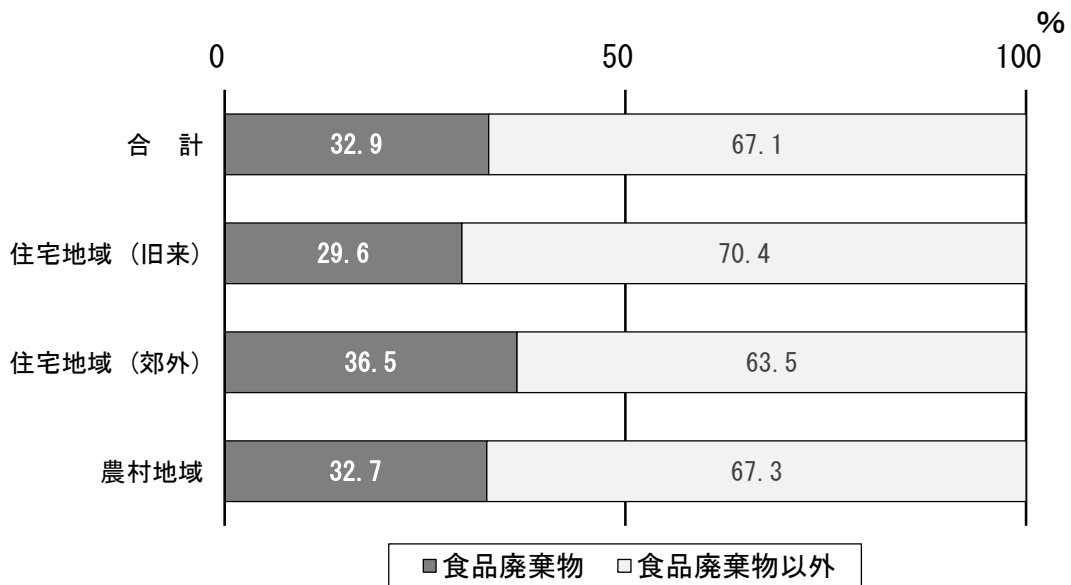


図 13. サンプル試料中の食品廃棄物の重量割合（伊勢市）

（3）食品廃棄物中の食品ロスの割合

食品廃棄物中の食品ロスの重量割合を表 20 および図 14 に示しました。市内 3 地域合計の食品ロスの割合は 39.3%でした。地域別にみると、住宅地域（旧来）で 48.7%、住宅地域（郊外）で 34.2%、農村地域では 36.9%と、住宅地域（旧来）で高くなりました。

表 20. 食品廃棄物中の食品ロスの重量割合（伊勢市）

単位：%

地域	食品ロスの割合	食品ロスの発生要因別内訳			
		直接廃棄			食べ残し
		100% 残存	50% 以上残存	50% 未満残存	
合計	39.3	13.5	3.7	2.4	19.7
住宅地域 (旧来)	48.7	15.6	6.0	2.0	25.2
住宅地域 (郊外)	34.2	13.1	2.5	2.5	16.2
農村地域	36.9	12.2	3.1	2.6	18.9

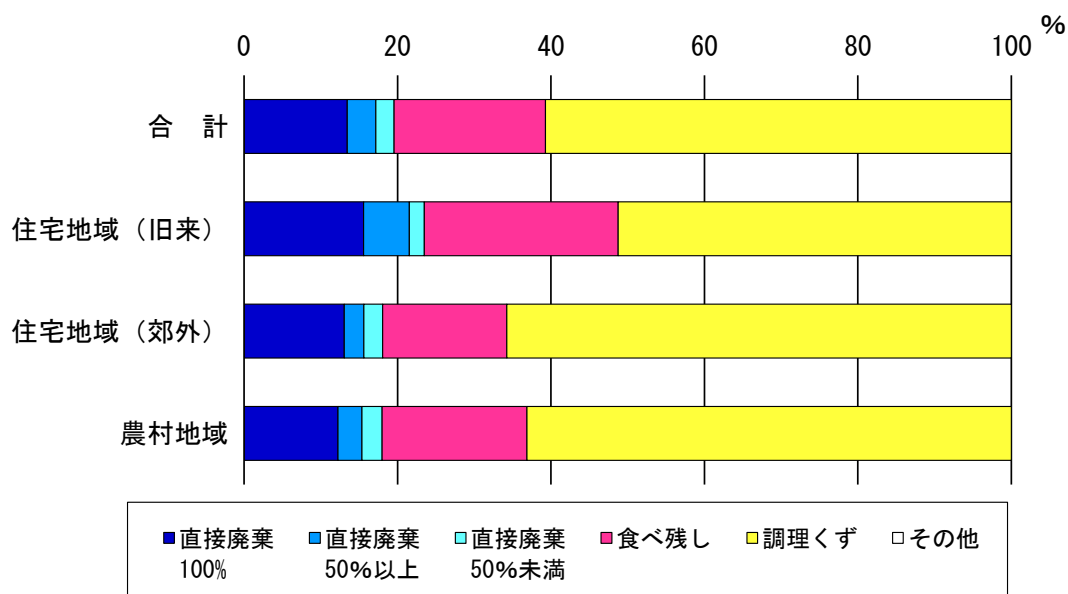


図 14. 食品廃棄物中の食品ロス（直接廃棄+食べ残し）の重量割合（伊勢市）

（4）食品ロスの発生要因別内訳

市内 3 地域のいずれにおいても、食べ残しと直接廃棄（100%残存）が食品ロスの大半（食品ロスの 84~86%）を占めました（表 20、図 14）。食べ残しについては、ご飯、餃子・シュウマイ、麺類、鍋具材、みかん、リンゴ等（写真 10）、直接廃棄（100%）ではハム、そば、餅、レトルト食品等（写真 11）の廃棄が目立ちました。



写真 10. 「食べ残し」の試料（ご飯、餃子・シュウマイ、麺類、鍋具材、みかん、リンゴ等が廃棄。伊勢市 住宅地域（旧来）の事例）



写真 11. 「直接廃棄（100%残存）」の試料（ハム、そば、餅、レトルト食品等。伊勢市 住宅地域（郊外）の事例）

地域別にみると、食べ残しの割合は住宅地域（旧来）で高く、一方で直接廃棄（100%残存）は3地域で類似した値を示しました（表20、図14）。

（5）直接廃棄された食品の消費・賞味期限の記載状況

直接廃棄（100%残存）における消費・賞味期限の記載状況（直接廃棄100%残存に占める重量割合）を表21および図15に整理しました。市内3地域において、消費・賞味期限内の食品の割合は0.1~0.2%と低い値を示しました。一方、消費・賞味期限切れの割合は3地域合計で37.9%であり、住宅地域（郊外）で51.0%と高くなりました。また、表示なしの割合については、農村地域で76.6%と高い値を示しました。こうした地域特性は、鈴鹿市や津市と類似していました。

表21. 直接廃棄された食品（100%残存）の消費・賞味期限の記載状況（伊勢市）

単位：%

地 域	期限内		期限切れ		表示なし
	消費期限	賞味期限	消費期限	賞味期限	
合 計	0.0	0.1	14.5	23.4	62.0
住宅地域（旧来）	0.0	0.2	22.6	16.9	60.2
住宅地域（郊外）	0.0	0.1	9.2	41.8	48.8
農村地域	0.0	0.0	11.9	11.5	76.6

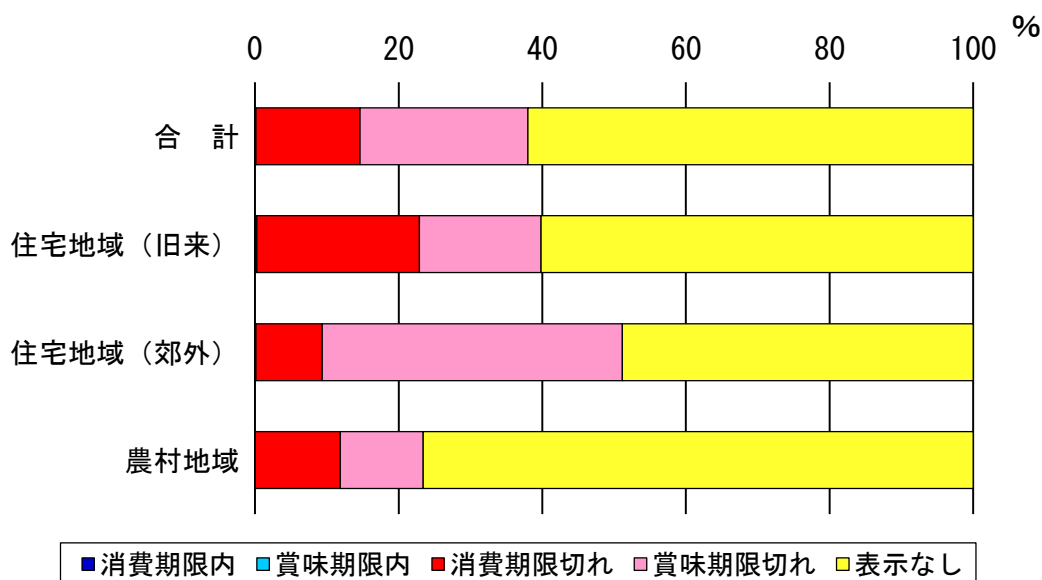


図15. 直接廃棄された食品（100%残存）の消費・賞味期限の記載状況（伊勢市）

直接廃棄全体（100%残存、50%以上残存、50%未満残存）の消費・賞味期限の記載状況を表 22 および図 16 に示しました。市内 3 地域合計の消費・賞味期限内の割合は 4.4%、消費・賞味期限切れは 40.0%となり、直接廃棄（100%残存）と概ね類似した値となりました。

表 22. 直接廃棄された食品（全体）の消費・賞味期限の記載状況（伊勢市）

単位：%

地 域	期限内		期限切れ		表示なし
	消費期限	賞味期限	消費期限	賞味期限	
合 計	0.0	4.4	18.1	21.9	55.6
住宅地域（旧来）	0.0	1.5	26.7	14.9	56.9
住宅地域（郊外）	0.0	0.1	12.7	37.3	49.9
農村地域	0.0	11.3	14.7	14.5	59.6

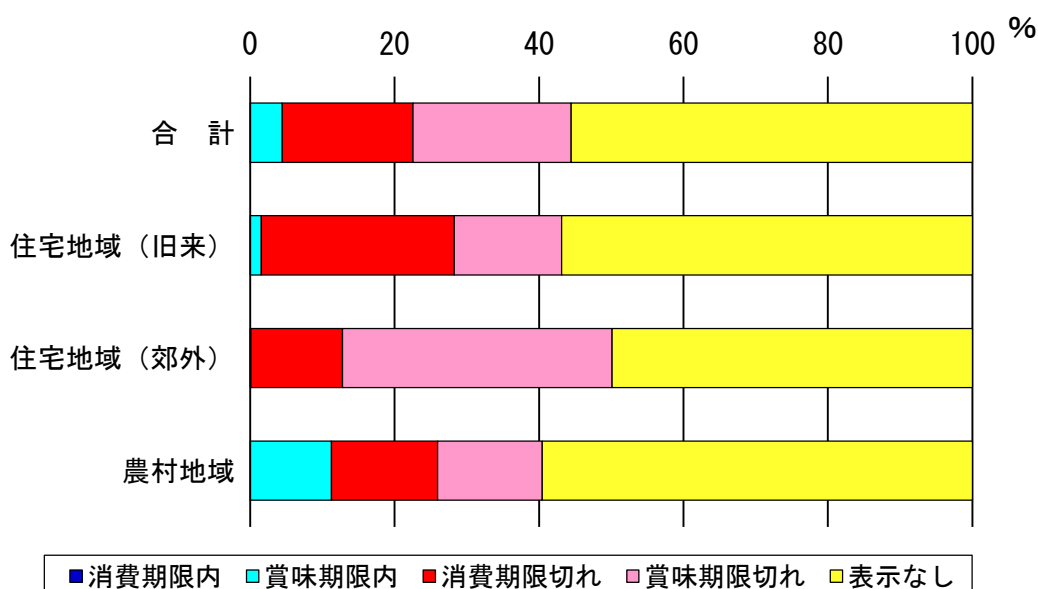


図 16. 直接廃棄された食品（全体）の消費・賞味期限の記載状況（伊勢市）

(6) 食品ロス発生量

本調査によって推計した伊勢市全体の食品ロス発生量を表 23 および図 17 に、伊勢市 1 人 1 日当たりの食品ロス発生量を図 18 に示しました。市内全体の年間の食品ロス発生量は 3,332t、このうち、直接廃棄（100%残存）は 1,142t、直接廃棄（50%以上残存）は 315t、直接廃棄（50%未満残存）は 203t、食べ残しは 1,673t と推計されました。伊勢市の人口（124,543 人）⁶⁾から 1 人 1 日当たりの食品ロス発生量を見積もると 73.3 g となりました（図 18）。

表 23. 伊勢市における食品ロス発生量の推計（年間ベース）

家庭系可燃ごみ 収集量 (t) *1	家庭系可燃ごみに 占める 食品廃棄物の割合 (%) *2	食品廃棄物 発生量 (t)	食品廃棄物に占める食品ロスの割合 (%) *2					食品ロス発生量 (t)				
			発生要因 全体	直接廃棄			食べ残し	発生要因 全体	直接廃棄			食べ残し
				100% 残存	50%以上 残存	50%未満 残存			100% 残存	50%以上 残存	50%未満 残存	
(a)	(b)	$(A=a \times b / 100)$	(c)	(c ₁)	(c ₂)	(c ₃)	(c ₄)	$(B_1 = A \times c_1 / 100)$	$(B_2 = A \times c_2 / 100)$	$(B_3 = A \times c_3 / 100)$	$(B_4 = A \times c_4 / 100)$	
25,763	32.9	8,484	39.3	13.5	3.7	2.4	19.7	3,332	1,142	315	203	1,673

*1 三重県環境生活部廃棄物対策局 廃棄物・リサイクル課資料（令和2年度実測値）⁹

*2 当該調査結果に基づく

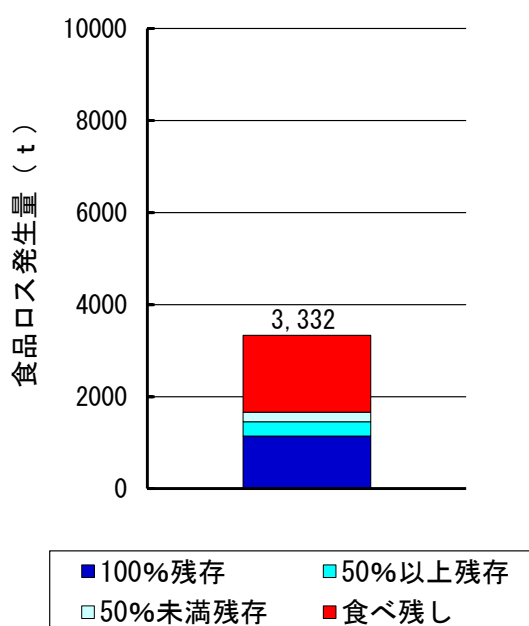


図 17. 年間の食品ロス発生量
(伊勢市)

(三重県環境生活部廃棄物対策局 廃棄物・リサイクル課資料（令和2年度実測値）に基づく)

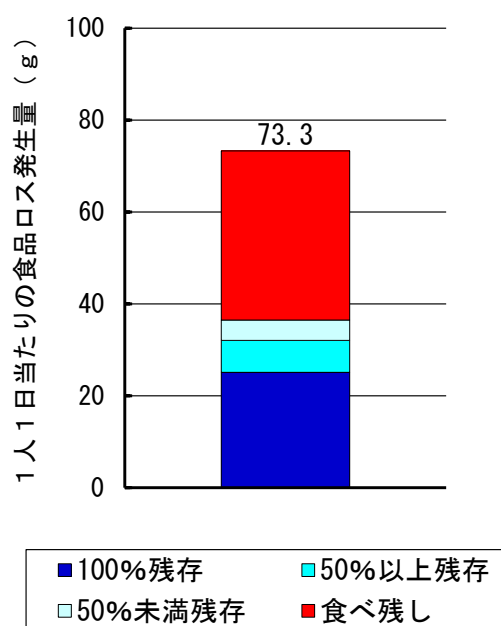


図 18. 1人1日当たり食品ロス発生量
(伊勢市)

(三重県環境生活部廃棄物対策局 廃棄物・リサイクル課資料（令和2年度実測値）に基づく)

3.4 食品ロス発生状況の地域間比較

以上の調査結果をもとに、各市における食品ロスの発生状況を表 24 に整理しました。方法の項で述べたように、家庭における食品ロス発生量は「家庭系可燃ごみ排出量」と「可燃ごみ中の食品廃棄物の割合」、「食品廃棄物中の食品ロスの割合」の積で求められます。調査対象とした3つの市においては、1人1日当たりの可燃ごみ排出量、食品廃棄物の割合、食品ロスの割合は比較的類似し、とりわけ食品ロスの割合については35%前後の近い値を示しました。これにより、推計された各市の1人1日当たりの食品ロス発生量も、68~79gと比較的類似した値が得られています。また、食品ロスの発生量の内訳においても、津市の直

接廃棄（100%残存）がやや多い以外は、市間で顕著な差はみられませんでした。

本調査では、いずれの市においても、食品ロス発生要因の大部分を食べ残しと直接廃棄（100%残存）が占めました。それぞれの組成も各市で類似し、食べ残しではご飯、豆腐や野菜、みかん・リンゴ等の果物類、直接廃棄（100%残存）ではハムやのり、おせち用総菜、そば、餅、レトルト食品、お菓子類等（6つの基礎食品群で言うと第1群のたんぱく質、第2群のカルシウム、第3群のカロチン、第4群のビタミンC、第5群の炭水化物等、多様な食品群に該当）の廃棄が目立ちました。

表 24. 各市における食品ロスの発生状況総括

調査対象市	1人1日当たりの可燃ごみ排出量 (g) *	可燃ごみ中の食品廃棄物の割合 (%)	食品廃棄物中の食品ロスの割合 (%)	1人1日当たりの食品ロス発生量 (g)	1人1日当たり食品ロス発生量の内訳 (g)			
					直接廃棄			食べ残し
					100%残存	50%以上残存	50%未満残存	
鈴鹿市	494.8	38.5	35.7	68.0	23.1	7.9	3.1	33.9
津市	536.6	44.1	33.5	79.3	34.6	10.2	6.2	28.2
伊勢市	566.7	32.9	39.3	73.3	25.1	6.9	4.5	36.8

* 三重県環境生活部廃棄物対策局 廃棄物・リサイクル課資料（令和2年度実測値）に基づく⁹⁾

木村ら¹¹⁾はアンケート調査に基づき、夫婦と子供からなる世帯では食品ロス発生頻度が高く、その主な原因は食べ残しであること、単身世帯では消費期限切れによる直接廃棄が比較的多いこと等、家族構成によって家庭の食品ロス発生要因が異なることを指摘しています。今回、家族構成に直接狙いを絞った調査は行わなかった一方で、家族構成や食習慣の違い等を包括する地域環境に着目し、各市において3つの調査地域（住宅地域（旧来）、住宅地域（郊外）、農村地域）を設定して調査を実施しました。本調査では、食品廃棄物の割合や食品ロスの割合、食品ロスの内訳（食べ残しと直接廃棄（100%））については、3市の同じ地域環境間で共通の傾向は見出せませんでした。一方、直接廃棄された食品の消費・賞味期限に係る調査においては、直接廃棄に占める消費・賞味期限切れ食品の割合は3市とも住宅地域（郊外）で高く、また、消費・賞味期限の表示がない食品（表示なし）の割合は農村地域で高いという共通の傾向が認められました（表9、表15、表21など参照）。同様の傾向は令和元年度調査³⁾においても確認されています。住宅地域（郊外）はいわゆる新興住宅地域であり、住民は若い世代が主体と考えられます。食品を購入したものの、食べきれず、あるいは放置（食べ忘れ）し、期限切れとなり、直接廃棄されたことが想定されます。また、農村地域では、生鮮野菜や果物等（表示なし）の直接廃棄が目立ったことから、収穫した野菜や果物を食べきれず、廃棄されたと考えられます。

本調査によって、食品ロスの発生要因に地域性のあることが推察されました。今後も調査を継続し、食品ロス発生の地域特性を詳細に把握するとともに、それらを踏まえた効果的な食品ロス削減方法や再利用方法を検討していく必要があります。

4 三重県内の家庭系食品ロス発生量の推計

三重県内の食品ロス発生量の推計結果を表 25 に示しました。合わせて、令和元年度調査時の同推計値³⁾を表 26 に示しました。本調査によって、三重県全体の 1 人 1 日当たりの食品ロス発生量は 74.9g、地域別には北勢地域で 71.8g、中勢地域で 78.3g、南勢・東紀州地域で 76.2g と推計されました。今回の調査では、食品ロス発生量に顕著な地域差は認められませんでした。本調査による県全体の食品ロス発生量（1 人 1 日当たり 74.9g）は、全国平均値（56.7g：令和元年度の食品ロス発生量推計値（環境省）¹³⁾および人口推計（総務省）¹⁴⁾から推定。表 27）を上回るとともに、本県における令和元年度の推計値³⁾（53.0g、表 26）も上回りました。また、県内のいずれの地域においても令和元年度の推計値³⁾（北勢地域：51.9g、中勢地域：54.7g、南勢・東紀州地域：53.7g、表 26）を上回りました。本調査で得られた県内の食品ロス発生量は、他県の市区町村と比較しても、比較的高い水準と言えます（表 27）。ちなみに、食品ロスと推計された「74.9g」は「茶碗半杯分のご飯」に相当します。

本調査で求められた三重県全体の 1 人 1 日当たりの家庭系可燃ごみ排出量は 536g（表 25）であり、令和元年度調査時³⁾（511g、表 26）と概ね類似した値を示しました。一方、本調査による可燃ごみ中の食品廃棄物の割合は、とりわけ人口、ごみ排出量が集中する北勢地域、中勢地域で令和元年度調査時より高くなりました。同様に、本調査による食品廃棄物中の食品ロスの割合も、すべての地域で令和元年度調査時より高くなりました（表 25、表 26）。1 人 1 日当たりの食品ロス発生量が令和元年度調査時より増加したのは、こうした食品廃棄物や食品ロスの割合が上昇したことに起因しています。

表 25. 三重県における食品ロス発生量の推計（令和 2 年度の家庭系可燃ごみ収集量（実測値）及び人口に基づく）

地域区分	年間の家庭系可燃ごみ収集量 (t)	人口 (人)	1人1日当たりの可燃ごみ排出量 (g)	家庭系可燃ごみに占める食品廃棄物の割合 (%)	食品廃棄物に占める食品ロスの割合 (%)	食品ロス発生量	
						年間 (t)	1人1日当たり (g)
	(a) *4	(p) *4	(A)	(b) *5	(c) *5	(Bt = a×b/100×c/100)	(Bs = Bt × 10 ⁶ /p/365)
北勢地域*1	161,463	847,326	522.1	38.5	35.7	22,194	71.8
中勢地域*2	126,337	652,888	530.2	44.1	33.5	18,666	78.3
南勢・東紀州地域*3	64,630	300,371	589.5	32.9	39.3	8,360	76.2
三重県全体	352,430	1,800,585	536.2	—	—	49,219	74.9

*1 北勢地域（桑名市・四日市市・いなべ市・鈴鹿市・亀山市・木曾岬町・東員町・菰野町・朝日町・川越町）

*2 中勢地域（津市・松阪市・名張市・伊賀市・多気町・明和町・大台町）

*3 南勢・東紀州地域（伊勢市・鳥羽市・志摩市・尾鷲市・熊野市・玉城町・度会町・大紀町・南伊勢町・紀北町・御浜町・紀宝町）

*4 三重県環境生活部廃棄物対策局 廃棄物・リサイクル課資料（令和2年度実測値）⁶⁾

*5 本調査データに基づく。北勢地域には「鈴鹿市」、中勢地域には「津市」、南勢・東紀州地域には「伊勢市」の調査データ（割合）を代表値として適用した。

表 26. 令和元年度の三重県食品ロス発生量（令和元年度調査報告書³⁾に基づく）

地域区分	年間の家庭系可燃ごみ収集量 (t) (a) *5	人口 (人) (p) *5	1人1日当たりの可燃ごみ排出量 (g) (A)	家庭系可燃ごみに占める食品廃棄物の割合 (%) (b)	食品廃棄物に占める食品ロスの割合 (%) (c)	食品ロス発生量	
						年間 (t) (Bt= a×b/100×c/100)	1人1日当たり (g) (Bs= Bt×10 ⁶ /p/365)
北勢地域*1	150,973	848,961	487.2	33.7	31.6	16,077	51.9
中勢地域*2	97,821	494,202	542.3	36.8	27.4	9,863	54.7
伊賀地域*3	27,636	172,437	439.1	41.9	28.7	3,323	52.8
南勢・東紀州地域*4	65,063	314,145	567.4	34.9	27.1	6,154	53.7
三重県全体	341,493	1,829,745	511.3	—	—	35,417	53.0

*1 北勢地域（桑名市・四日市市・いなべ市・鈴鹿市・亀山市・木曾岬町・東員町・菰野町・朝日町・川越町）

*2 中勢地域（津市・松阪市・多気町・明和町・大台町）

*3 伊賀地域（伊賀市・名張市）

*4 南勢・東紀州地域（伊勢市・鳥羽市・志摩市・尾鷲市・熊野市・玉城町・度会町・大紀町・南伊勢町・紀北町・御浜町・紀宝町）

*5 平成29年度一般廃棄物処理事業のまとめ Ⅲ、ごみ処理編（三重県）¹²⁾

表 27. 他縣市町との食品ロス発生量の比較

調査地域	1人1日当りの食品ロス発生量 (g/人・日)
1. 全国平均 ^{*1}	56.7
2. 本調査	
三重県全体	74.9
鈴鹿市	68.0
津市	79.3
伊勢市	73.3
3. 環境省調査 ^{*2}	
岩手県八幡平市	63.3
岩手県北上市	39.9
栃木県日光市	136.6
千葉県四街道市	38.5
千葉県浦安市	44.9
東京都多摩市	38.7
東京都国立市	49.1
東京都小平市	42.1
神奈川県逗子市	24.6
静岡県函南町	64.8
京都府与謝野町	64.9
大阪府茨木市	62.3
大阪府熊取町	74.0
大阪府守口市	25.9
兵庫県高砂市	72.9
兵庫県姫路市	45.2
岡山県玉野市	87.9
福岡県古賀市	55.4
18市町平均	57.3
4. 県独自調査	
宮城県 ^{*3}	54.0
愛知県 ^{*4}	77.8
愛媛県 ^{*5}	62.4

*1 環境省推計による令和元年度食品ロス発生量¹³⁾、総務省による令和元年人口推計¹⁴⁾から試算

*2 令和2年度市区町村食品ロス実態調査支援報告書（環境省）¹⁵⁾

*3 宮城県食品ロス削減推進計画（令和4年1月、宮城県）¹⁶⁾

*4 愛知県廃棄物処理計画（愛知県食品ロス削減推進計画 2022年度～2026年度（令和4年2月、愛知県）¹⁷⁾

*5 愛媛県家庭系食品ロス実態調査（令和2年度、愛媛県ホームページ）¹⁸⁾

【食品ロス発生量が増加した原因について（考察）】

ひとつの要因として、調査時期が影響した可能性が考えられます。令和元年度調査は11月に実施されました。一方、本調査は正月明け間もない1月中旬に実施しています。前述したように、本調査では食品ロスの大半を食べ残しと直接廃棄（100%残存）が占め、食べ残しではご飯やなべ具材、みかん等、直接廃棄（100%残存）ではおせち用総菜、そば、餅等の正月用食材、お菓子類等の廃棄が目立ちました。また、直接廃棄された食品は消費・賞味期限切れものが多くを占めました。独立行政法人農畜産業振興機構の調査・研究報告¹⁹⁾によれば、二人以上世帯における12月の食品購入支出額は、他の月より突出して大きいことが指摘されています。正月を控え、食品購入が増えることが支出増加の主な要因と考えられます。正月用に準備した多くの食品を食べきれず、消費・賞味期限切れとなり、まとめて廃棄されたタイミングで本調査を実施したことが、食品ロス発生量の増加につながったと推察されます。今回の調査結果を含め、食品ロス発生要因には季節的な特性があり、その発生量も変化することが予想されます。

もうひとつの要因として、新型コロナウイルス感染症拡大に伴う食料消費の変化が影響した可能性が考えられます。農林水産省が行った「食育に関する意識調査」²⁰⁾によれば、コロナ禍において「自宅で食事を食べる回数」や「自宅で料理を作る回数」が増えたと報告されています。また、農畜産振興機構¹⁹⁾は、令和2年4月に7都府県に対して発令された緊急事態宣言がその後全国に拡大される中で、外食が大幅に減少する一方、家庭内調理のための支出金額が大幅に増加したことを指摘しています。さらに、家庭内調理機会の増加に伴い、穀類・肉類等の生鮮品や保存性の高いレトルト食品²¹⁾、冷凍食品²²⁾等にかかる食料支出が大幅に伸びていること、また、まとめ買いが進んでいること²¹⁾が報告されています。令和元年度調査時³⁾に比べ家庭系の食品ロス発生量が増加した一因として、こうした新型コロナウイルス感染症拡大に伴う食生活スタイルや食料消費の変化が大きく寄与していると推察されます。今回、食品ロス発生量の比較に用いた全国平均値（1人1日当たり56.7g）は、令和元年度のデータ^{13, 14)}に基づく推計であることから、コロナ禍の現時点ではさらに増加している可能性があります。

今後定着が進む「新しい生活様式」の中では、家庭での食事が中心となり、家庭調理の頻度がさらに高まることが予想されています²¹⁾。現状の食品廃棄の状態が継続すると、食品ロス発生量はさらに増加する可能性があります。食品ロスの削減に向け、県民ひとり一人が、食べ物を無駄にしない意識をこれまで以上に高めていくことが重要となります。

5 おわりに

SDGs（持続可能な開発目標）の目標12「つくる責任・つかう責任」においては、「2030年までに小売り・消費レベルにおける世界全体の一人当たりの食料の廃棄を半減させる」ことを目指しています。三重県においても、令和3年3月に「三重県循環型社会形成推進計画（計画期間：令和3年度～令和7年度）」¹⁾が策定され、重要施策のひとつとして「食品ロス

等対策の推進」を位置づけ、令和7年度までに令和3年度比で家庭系食品ロス発生量を10%削減する目標を掲げ、市町と連携して、食べ物を無駄にしない意識を醸成し、それが行動につながるよう、発生抑制の取組みを進めていくこととしています。また、前述したように、市町においても食品ロス削減を重要施策に位置づけ、市民との連携を重視しながら、種々の取組みを進めています。

本調査によれば、県内の食品ロスの多くは「食べ残し」と「直接廃棄（100%残存）」によるものでした。食べ残しの発生原因の多くは、作り過ぎや放置（食べ忘れ）によるものです。一方、直接廃棄（100%残存）の発生原因の多くは、過剰購入や放置（食べ忘れ）によるものです。いずれも人為的要因によるものであり、それゆえ、県民ひとり一人の自覚や行動次第で削減は十分可能であると考えられます。消費量に見合った適量の食品購入と調理、食べ残しや残り物食材の保管方法の工夫、残り物食材を美味しいものに変身させる工夫（レシピ開発、料理教室開催等）、フードバンク、子ども食堂等への寄付の促進等々、対応方法は多々あります。木村ら¹¹⁾が行った最近のアンケート調査によれば、「家庭での食品ロスが年間約284万トンあることを知っていますか」との問いに対し、「知らなかった」と「聞いたことがあるがよくわからない」と回答した人は約70%に達し、食品ロスの実態に対する認知度が極めて低いことを報告しています。まずは、今回得られた食品ロスの実態を県民ひとり一人に理解してもらうこと、そのうえで食品ロス削減に向け各人が何をすべきかを考えてもらうことが食品ロス削減の重要なポイントとなりそうです。そのきっかけを作るために、現在、県や市町は食品ロス削減に関する種々の啓蒙活動（イベント開催や情報発信など）に積極的に取り組んでいます。今後もこうした取組みを地道に進めていく必要があります。特に次代を担う子供たちへの啓蒙・教育活動が重要になると考えられます。

引用した文献・資料等

- 1) 三重県：三重県循環型社会形成推進計画、令和3年3月。
- 2) 環境省 環境再生・資源循環局：家庭系食品ロスの発生状況の把握のためのごみ袋開袋調査手順書（令和元年5月版）、令和元（2019）年5月。
- 3) 三重県：令和元年度食品廃棄物等細組成分析調査業務委託報告書、令和2（2020）年3月。
- 4) 消費者庁食品表示課：ホームページ、加工食品の表示に関する共通Q & A（第2集：消費期限又は賞味期限について）、https://www.maff.go.jp/j/jas/hyoji/pdf/qa_ka_2_h2304.pdf（令和4年2月閲覧）
- 5) 環境省 環境再生・資源循環局：ホームページ、家庭系食品廃棄物及び食品ロス発生量の全国推計方法について、<https://www.env.go.jp/recycle/foodloss/pdf/suikenuituite.pdf>（令和4年2月閲覧）。
- 6) 三重県環境生活部廃棄物対策局 廃棄物・リサイクル課資料（令和2年度実測値）、令和4年2月。（別添 参考資料参照）
- 7) 三重県：ホームページ、県内市町、<https://www.pref.mie.lg.jp/link/link1.htm>（令和4年2月閲覧）。
- 8) 鈴鹿市：鈴鹿市一般廃棄物処理基本計画、平成31（2019）年3月。
- 9) 津市：津市一般廃棄物処理基本計画、平成30年3月。
- 10) 伊勢市：伊勢市ごみ処理基本計画、平成30年。
- 11) 木村由佳・神武直彦・佐藤みずほ、家族構成の違いによる家庭の食品ロス発生原因のアンケート調査と分析、第32回廃棄物資源循環学会研究発表会講演原稿、2021。
- 12) 三重県：平成29年度一般廃棄物処理事業のまとめ III、ごみ処理編、平成31年3月。
- 13) 環境省：ホームページ、我が国の食品ロスの発生量の推計値（令和元年度）の公表について、<https://www.env.go.jp/press/110247.html>、令和3年11月30日（令和4年2月閲覧）。
- 14) 総務省統計局：ホームページ、人口推計（令和元年10月1日現在）。
<https://www.stat.go.jp/data/jinsui/index.htm>（令和4年2月閲覧）。
- 15) 環境省：ホームページ、令和2年度市区町村食品ロス実態調査支援報告書、
<http://www.env.go.jp/recycle/foodloss/pdf/r2shikusyokujittai.pdf>（令和4年2月閲覧）。
- 16) 宮城県：宮城県食品ロス削減推進計画、令和4年1月。
- 17) 愛知県：愛知県廃棄物処理計画、愛知県食品ロス削減推進計画（2022年度～2026年度）、令和4年2月。
- 18) 愛媛県：ホームページ、愛媛県家庭系食品ロス実態調査（令和2年度）（令和4年2月閲覧）。
- 19) 独立行政法人 農畜産業振興機構：ホームページ、新型コロナウイルス禍における野菜消費の変化、<https://www.alic.go.jp/index.html>（令和4年2月閲覧）。
- 20) 農林水産省消費・安全局：食育に関する意識調査報告書、令和3年3月。

- 21) 農林中金総合研究所、ホームページ、コロナ禍における食品関連産業への影響と農政の動向、<https://www.nochuri.co.jp/genba/pdf/otr20200619.pdf> (2020年6月) (令和4年2月閲覧)。
- 22) 青柳 斉、新型コロナウイルス禍の主食的消費への影響～感染拡大の第1波から第3波まで～、一般社団法人日本協同組合連携機構研究レポート、2021年5月。

参考資料 各市町における家庭系可燃ごみ収集量と人口

三重県環境生活部廃棄物対策局廃棄物・リサイクル課提供資料（令和2年度実測値）

地域区分	市町名	可燃ごみ 収集量 (t/年)	人口 R2.10.1時点
北勢地域	桑名市	31,354	141,458
	四日市市	59,874	311,716
	いなべ市	7,342	45,422
	鈴鹿市	35,988	199,249
	亀山市	10,969	49,530
	木曾岬町	1,018	6,200
	東員町	4,298	25,931
	菰野町	7,353	41,613
	朝日町	1,412	10,980
	川越町	1,855	15,227
	小計	161,463	847,326
中勢地域	津市	54,125	276,323
	松阪市	35,061	162,244
	名張市	12,131	77,708
	伊賀市	16,065	90,097
	多気町	2,495	14,404
	明和町	4,735	23,088
	大台町	1,725	9,024
	小計	126,337	652,888
南勢・東紀州地域	伊勢市	25,763	124,543
	鳥羽市	4,140	18,029
	志摩市	10,291	46,104
	尾鷲市	3,966	17,253
	熊野市	3,494	16,476
	玉城町	3,108	15,405
	度会町	2,085	8,043
	大紀町	1,627	8,270
	南伊勢町	2,798	11,869
	紀北町	3,980	15,343
	御浜町	1,384	8,279
	紀宝町	1,994	10,757
	小計	64,630	300,371
県合計	352,430	1,800,585	

資料編

現場写真

(1) 鈴鹿市 住宅地域 (旧来)

【稻生中瀬古地区】



①ごみ集積所における試料の採取



②ごみ試料の積み込み (平ボディトラック)



③分類作業場所へのごみ試料の搬入



④ごみ試料の重量測定



⑤収集したごみ試料



⑥ごみ分類作業実施場所

サンプリング風景



①分類作業1



②分類作業2

分類作業風景



①調理くず



②食べ残し



③直接廃棄 100%残存 (賞味期限切れ)



④直接廃棄 100%残存 (表示なし)



⑤直接廃棄 50%以上残存 (賞味期限切れ)



⑥直接廃棄 50%以上残存 (表示なし)

食品廃棄物の分類状況 - 1



⑦直接廃棄 50%未満残存（消費期限切れ）



⑧直接廃棄 50%未満残存（賞味期限切れ）



⑨直接廃棄 50%未満残存（表示なし）

食品廃棄物の分類状況 - 2

(2) 鈴鹿市 住宅地域 (郊外)

【東旭が丘地区】



①ごみ集積所における試料の採取



②ごみ試料の積み込み (平ボディトラック)



③分類作業場所へのごみ試料の搬入



④ごみ試料の重量測定



⑤収集したごみ試料

サンプリング風景



①分類作業1



②分類作業2

分類作業風景



①調理くず



②食べ残し



③直接廃棄 100%残存 (消費期限切れ)



④直接廃棄 100%残存 (賞味期限切れ)



⑤直接廃棄 100%残存 (表示なし)



⑥直接廃棄 50%以上残存 (消費期限切れ)

食品廃棄物の分類状況 - 1



⑦直接廃棄 50%以上残存（賞味期限内）



⑧直接廃棄 50%以上残存（賞味期限切れ）



⑨直接廃棄 50%以上残存（表示なし）



⑩直接廃棄 50%未満残存（消費期限切れ）



⑪直接廃棄 50%未満残存（賞味期限内）



⑫直接廃棄 50%未満残存（賞味期限切れ）

食品廃棄物の分類状況 - 2



⑬直接廃棄 50%未満残存（表示なし）

食品廃棄物の分類状況 - 3

(3) 鈴鹿市 農村地域
【下箕田地区】



①ごみ集積所における試料の採取



②ごみ試料の積み込み（平ボディトラック）



③分類作業場所へのごみ試料の搬入



④ごみ試料の重量測定



⑤収集したごみ試料

サンプリング風景



①分類作業1



②分類作業2

分類作業風景



①調理くず



②食べ残し



③直接廃棄 (100%残存・賞味期限切れ)



④直接廃棄 (100%残存・表示なし)



⑤直接廃棄 (50%以上残存・消費期限切れ)



⑥直接廃棄 (50%以上残存・賞味期限切れ)

食品廃棄物の分類状況 - 1



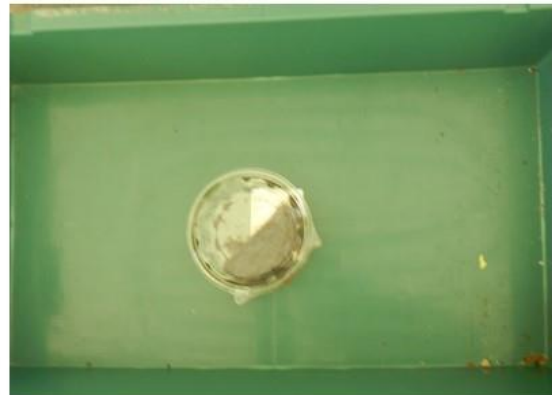
⑦直接廃棄 (50%以上残存・表示なし)



⑧直接廃棄 (50%未満残存・消費期限切れ)



⑨直接廃棄 (50%未満残存・賞味期限切れ)



⑩直接廃棄 (50%未満残存・表示なし)

食品廃棄物の分類状況 - 2

(4) 津市 住宅地域 (旧来)

【一身田中野地区】



①分類作業場所へのごみ試料の搬入



②ごみ試料の重量測定



③収集したごみ試料



④分類作業実施場所

サンプリング風景



①分類作業1



②分類作業2



③分類作業3

分類作業風景



①調理くず



②食べ残し



③直接廃棄 (100%残存・賞味期限内)



④直接廃棄 (100%残存・賞味期限切れ)



⑤直接廃棄 (100%残存・表示なし)



⑥直接廃棄 (50%以上残存・賞味期限内)

食品廃棄物の分類状況 - 1



⑦直接廃棄 (50%以上残存・賞味期限切れ)



⑧直接廃棄 (50%以上残存・表示なし)



⑨直接廃棄 (50%未満残存・賞味期限内)



⑩直接廃棄 (50%未満残存・賞味期限切れ)



⑪直接廃棄 (50%未満残存・表示なし)

食品廃棄物の分類状況 - 2

(5) 津市 住宅地域 (郊外)

【緑の街地区】



①試料採取したごみ集積所



②ごみ試料の積み込み (平ボディトラック)



③分類作業場所へのごみ試料の搬入



④ごみ試料の重量測定



⑤収集したごみ試料

サンプリング風景



①分類作業1



②分類作業2

分類作業風景



食品廃棄物の分類状況 - 1



⑦直接廃棄 (50%以上残存・消費期限切れ)



⑧直接廃棄 (50%以上残存・賞味期限内)



⑨直接廃棄 (50%以上残存・賞味期限切れ)



⑩直接廃棄 (50%以上残存・表示なし)



⑪直接廃棄 (50%未満残存・消費期限切れ)

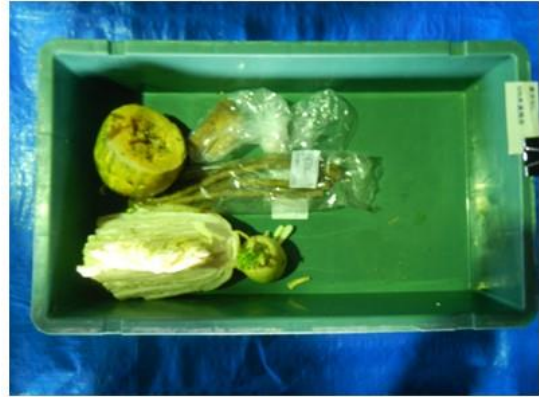


⑫直接廃棄 (50%未満残存・賞味期限内)

食品廃棄物の分類状況 - 2



⑬直接廃棄 (50%未満残存・賞味期限切れ)



⑭直接廃棄 (50%未満残存・表示なし)

食品廃棄物の分類状況 - 3

(6) 津市 農村地域
【大里山室地区】



①ごみ集積所における試料の採取



②ごみ試料の積み込み (平ボディトラック)



③分類作業場所へのごみ試料の搬入



④ごみ試料の重量測定



⑤収集したごみ試料



⑥ごみ分類作業実施場所

サンプリング風景



①分類作業1



②分類作業2

分類作業風景



①調理くず



②食べ残し



③直接廃棄（100%残存・消費期限切れ）



④直接廃棄（100%残存・賞味期限切れ）



⑤直接廃棄（100%残存・表示なし）



⑥直接廃棄（50%以上残存・消費期限切れ）

食品廃棄物の分類状況 - 1



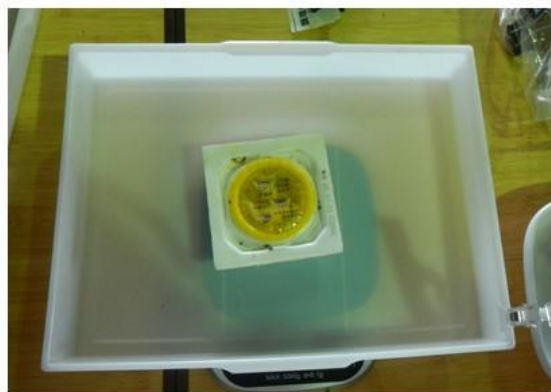
⑦直接廃棄 (50%以上残存・賞味期限切れ)



⑧直接廃棄 (50%以上残存・表示なし)



⑨直接廃棄 (50%未満残存・消費期限切れ)



⑩直接廃棄 (50%未満残存・賞味期限切れ)



⑪直接廃棄 (50%未満残存・表示なし)

食品廃棄物の分類状況 - 2

(7) 伊勢市 住宅地域 (旧来)

【一之木地区】



①ごみ集積所における試料の採取



②ごみ試料の積み込み（平ボディトラック）



③分類作業場所へのごみ試料の搬入



④ごみ試料の重量測定



⑤収集したごみ試料



⑥ごみ分類作業実施場所

サンプリング風景



①分類作業1



②分類作業2

分類作業風景



食品廃棄物の分類状況 - 1



⑦直接廃棄 (50%以上残存・消費期限切れ)



⑧直接廃棄 (50%以上残存・賞味期限内)



⑨直接廃棄 (50%以上残存・賞味期限切れ)



⑩直接廃棄 (50%以上残存・表示なし)



⑪直接廃棄 (50%未満残存・消費期限切れ)



⑫直接廃棄 (50%未満残存・賞味期限内)

食品廃棄物の分類状況 - 2



⑬直接廃棄 (50%未満残存・賞味期限切れ)



⑭直接廃棄 (50%未満残存・表示なし)

食品廃棄物の分類状況 - 3

(8) 伊勢市 住宅地域 (郊外)

【柏団地地区】



①ごみ集積所における試料の採取



②ごみ試料の積み込み（平ボディトラック）



③分類作業場所へのごみ試料の搬入



④ごみ試料の重量測定



⑤収集したごみ試料

サンプリング風景



①分類作業 1



②分類作業 2



③分類作業 3

分類作業風景



①調理くず



②食べ残し



③直接廃棄 (100%残存・消費期限切れ)



④直接廃棄 (100%残存・賞味期限内)

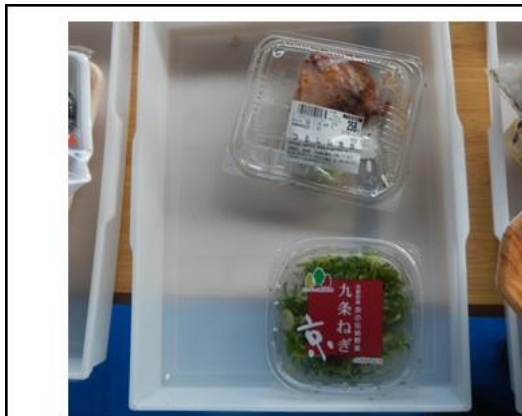


⑤直接廃棄 (100%残存・賞味期限切れ)



⑥直接廃棄 (100%残存・表示なし)

食品廃棄物の分類状況 - 1



⑦直接廃棄 (50%以上残存・消費期限切れ)



⑧直接廃棄 (50%以上残存・賞味期限切れ)



⑨直接廃棄 (50%以上残存・表示なし)



⑩直接廃棄 (50%未満残存・消費期限切れ)



⑪直接廃棄 (50%未満残存・賞味期限切れ)



⑫直接廃棄 (50%未満残存・表示なし)

食品廃棄物の分類状況 - 2

(9) 伊勢市 農村地域
【西豊浜小川地区】



①ごみ集積所における試料の採取



②ごみ試料の積み込み（平ボディトラック）



③分類作業場所へのごみ試料の搬入



④ごみ試料の重量測定



⑤収集したごみ試料

サンプリング風景



①分類作業1



②分類作業2



③分類作業3

分類作業風景



①調理くず



②食べ残し



③直接廃棄（100%残存・消費期限切れ）



④直接廃棄（100%残存・賞味期限切れ）



⑤直接廃棄（100%残存・表示なし）



⑥直接廃棄（50%以上残存・消費期限切れ）

食品廃棄物の分類状況 - 1



⑦直接廃棄 (50%以上残存・賞味期限内)



⑧直接廃棄 (50%以上残存・賞味期限切れ)



⑨直接廃棄 (50%以上残存・表示なし)



⑩直接廃棄 (50%未満残存・消費期限切れ)



⑪直接廃棄 (50%未満残存・賞味期限内)



⑫直接廃棄 (50%未満残存・賞味期限切れ)

食品廃棄物の分類状況 - 2



食品廃棄物の分類状況 - 3

地域別データ一覧

鈴鹿市 食品ロス細組成分析調査_食品廃棄物の割合

調査日：令和4年1月18日（火）

中分類	細分類	細々分類	分類 No.	重量 (kg)				
				稲生中瀬古 地区 住宅地域 (旧来)	東旭が丘 地区 住宅地域 (郊外)	下箕田地区 農村地域	3地域 合計	
食品廃棄物以外				1	99.420	106.495	53.653	259.569
食品廃棄物	一般生ごみ	調理くず	2	55.385	31.845	17.355	104.585	
		食べ残し	3	9.495	16.440	2.950	28.885	
	未利用食品	直接廃棄 (手つかず100%残存)	消費期限・期限内	4	0.000	0.000	0.000	0.000
			消費期限・期限切れ	5	1.034	0.541	0.000	1.575
			賞味期限・期限内	6	0.000	0.007	0.000	0.007
			賞味期限・期限切れ	7	2.241	1.727	0.126	4.095
			表示なし	8	7.635	3.355	3.080	14.070
		直接廃棄 (手つかず50%以上残存)	消費期限・期限内	9	0.000	0.000	0.000	0.000
			消費期限・期限切れ	10	0.000	0.096	0.099	0.195
			賞味期限・期限内	11	1.048	0.055	0.000	1.103
			賞味期限・期限切れ	12	0.636	1.389	0.085	2.111
		直接廃棄 (手つかず50%未満残存)	消費期限・期限内	14	0.000	0.000	0.000	0.000
			消費期限・期限切れ	15	0.158	0.020	0.039	0.216
			賞味期限・期限内	16	0.053	0.214	0.000	0.267
	賞味期限・期限切れ		17	0.050	0.496	0.088	0.634	
		表示なし	18	0.095	1.055	0.385	1.535	
	その他	19	0.000	0.000	0.000	0.000		
	サンプリング試料（可燃ごみ）計				179.030	165.125	78.030	422.185
	うち 食品廃棄物計				79.610	58.630	24.377	162.616
うち 食品廃棄物以外計				99.420	106.495	53.653	259.569	

津市 食品ロス細組成分析調査_食品廃棄物の割合

調査日：令和4年1月14日（金）

中分類	細分類	細々分類	分類 No.	重量 (kg)				
				一身田中野 地区 住宅地域 (旧来)	緑の街 地区 住宅地域 (郊外)	大里山室 地区 農村地域	3地域 合計	
食品廃棄物以外			1	120.540	107.507	79.141	307.187	
食品廃棄物	一般生ごみ	調理くず	2	45.445	53.110	58.990	157.545	
		食べ残し	3	8.670	8.445	11.770	28.885	
	未利用食品	直接廃棄 (手つかず100%残存)	消費期限・期限内	4	0.000	0.000	0.000	0.000
			消費期限・期限切れ	5	0.755	0.945	0.955	2.655
			賞味期限・期限内	6	0.206	0.244	0.000	0.450
			賞味期限・期限切れ	7	1.333	3.330	0.290	4.953
		表示なし	8	12.790	3.995	10.570	27.355	
		直接廃棄 (手つかず50%以上残存)	消費期限・期限内	9	0.000	0.000	0.000	0.000
			消費期限・期限切れ	10	0.268	0.332	0.249	0.849
			賞味期限・期限内	11	0.399	0.538	0.000	0.937
	賞味期限・期限切れ		12	0.191	1.031	0.106	1.328	
	表示なし	13	1.685	2.530	3.140	7.355		
	直接廃棄 (手つかず50%未満残存)	消費期限・期限内	14	0.000	0.000	0.000	0.000	
		消費期限・期限切れ	15	0.149	0.650	0.450	1.249	
		賞味期限・期限内	16	0.085	0.171	0.000	0.257	
		賞味期限・期限切れ	17	0.049	0.618	0.050	0.717	
	表示なし	18	1.380	1.790	0.975	4.145		
	その他	19	0.000	0.000	3.270	3.270		
	サンプリング試料（可燃ごみ）計				193.945	185.235	169.955	549.135
うち 食品廃棄物計				73.405	77.728	90.814	241.948	
うち 食品廃棄物以外計				120.540	107.507	79.141	307.187	

伊勢市 食品ロス細組成分析調査_食品廃棄物の割合

調査日：令和4年1月17日（月）

中分類	細分類	細々分類	分類 No.	重量 (kg)				
				一之木地区 住宅地域 (旧来)	柏地区 住宅地域 (郊外)	西豊浜地区 農村地域	3地域 合計	
食品廃棄物以外				1	116.528	105.091	135.298	356.916
食品廃棄物	一般生ごみ	調理くず	2	25.135	39.710	41.570	106.415	
		食べ残し	3	12.375	9.760	12.425	34.560	
	未利用食品	直接廃棄 (手つかず100%残存)	消費期限・期限内	4	0.000	0.000	0.000	0.000
			消費期限・期限切れ	5	1.729	0.728	0.955	3.413
			賞味期限・期限内	6	0.019	0.010	0.000	0.029
			賞味期限・期限切れ	7	1.292	3.300	0.928	5.521
			表示なし	8	4.595	3.855	6.170	14.620
		直接廃棄 (手つかず50%以上残存)	消費期限・期限内	9	0.000	0.000	0.000	0.000
			消費期限・期限切れ	10	1.169	0.154	0.361	1.683
			賞味期限・期限内	11	0.058	0.000	0.723	0.780
	賞味期限・期限切れ		12	0.197	0.664	0.423	1.284	
	直接廃棄 (手つかず50%未満残存)	消費期限・期限内	14	0.000	0.000	0.000	0.000	
		消費期限・期限切れ	15	0.186	0.503	0.422	1.111	
		賞味期限・期限内	16	0.099	0.000	0.611	0.710	
		賞味期限・期限切れ	17	0.225	0.109	0.365	0.699	
		表示なし	18	0.460	0.880	0.330	1.670	
	その他	19	0.000	0.000	0.000	0.000		
	サンプリング試料（可燃ごみ）計				165.565	165.470	201.130	532.165
	うち 食品廃棄物計				49.037	60.380	65.832	175.249
うち 食品廃棄物以外計				116.528	105.091	135.298	356.916	

令和3年度
三重県食品廃棄物細組成分析調査
業務委託報告書

2022（令和4）年3月発行

三重県環境生活部 廃棄物対策局 廃棄物・リサイクル課
〒514-8570 三重県津市広明町13
TEL (059) 224-2385 FAX (059) 222-8136